

道路建設事業の再評価項目調書

事業名	一般国道 185 号 安芸津バイパス			事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：広島県 東広島市 安芸津町 風早 至：広島県 竹原市 吉名町 八代谷					延長	6.1km
事業概要							
一般国道 185 号は、広島県呉市から広島県三原市へ至る延長約72kmの主要幹線道路である。当該事業は、異常気象時の高潮や越波による路面冠水区間の回避や、津波浸水により到達が困難となる地域への緊急物資輸送を目的とするとともに、道路幅員が狭く平面曲線や縦断勾配の急な区間などの道路線形不良箇所が多数ある現道において、安全性の向上による地域経済の活性化・産業活動の効率化などを目的とした道路である。							
H11年度事業化		H10 年度都市計画決定		H13 年度用地着手		H17年度工事着手	
全体事業費	約185億円		事業進捗率 (H25年3月末時点)	31%		供用済延長	1.5 km
地域の防災面の課題				・ 平成 16 年 8 月には、台風による路面冠水により国道 185 号で約 3 時間にわたり通行止が発生、また翌月 9 月には、越波による通行規制が発生しており、大幅な迂回を強いられている。 ・ また、当該箇所は地震発生時の津波浸水想定範囲に該当しており、国道 185 号では津波浸水により通行機能に障害が発生する可能性がある。			
課題を踏まえた対策・事業内容				・ 国道 185 号（安芸津バイパス並行区間）には、道路幅員が狭く平面曲線や縦断勾配の急な区間などの道路線形不良箇所や歩道未整備区間が存在しており、安全性が損なわれている。これらの課題を解消するためにはバイパスによる整備が必要となる。			
事業の効果等				費用	(残事業)／(事業全体)		
○災害時の通行止めによる迂回路の確保、大幅な迂回の解消、代替性機能の確保、大規模地震発生の際の津波浸水時の通行機能の確保 ○道路線形不良箇所等の解消による走行安全性の確保 ○交通事故件数の削減 ○地域医療の支援（安静搬送）				115／189 億円 〔 事業費： 103 / 173 億円 維持管理費： 12 / 17 億円 〕			
関係する地方公共団体等の意見							
安芸津バイパスは、地域経済の活性化や産業活動の効率化等に重要な役割を果たすことが期待されており、東広島市長はもとより、地権者等関係者で構成される「安芸津町基幹道路等基盤整備促進同盟会」により、早期整備の要望を受けている。							
広島県知事の意見：対応方針（原案）については妥当である。 安芸津バイパスは、現道において、異常気象時に越波や路面冠水による通行止めが発生している区間があり、防災上の観点から重要な道路であると考えております。 現在、一部区間が供用されているものの交通転換が進まず、バイパスとしての機能が十分に発揮されていない状況となっております。 今後も引き続きコストの縮減に努めながら、早期の供用開始に向け、計画的に整備を進めていただきたい。							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等				東日本大震災を踏まえ、広島県において津波浸水想定が新たに公表された。			
事業の進捗状況、残事業の内容等				平成 25 年 3 月時点で、用地買収は約 32%、工事進捗が約 31%（全体 31%）が完了している。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等				平成21年3月に（主）安芸津下三永線から（市）上条浜田線までの区間（L=1.5km）が部分開通している。投資効果の早期発現を図るため、段階的に整備を進めており、残る4.6km区間の早期全線供用を目指し、事業を進めているところである。			

施設の構造や工法の変更等

- ・ 今後の事業の実施にあたっては、コスト削減を図りつつ事業を推進していく。

+

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・ 事業の必要性に変化はなく、防災面の効果が見込まれるため。

事業概要図



※ 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値

一般国道185号 あきつ 安芸津バイパス

事業再評価

平成25年10月

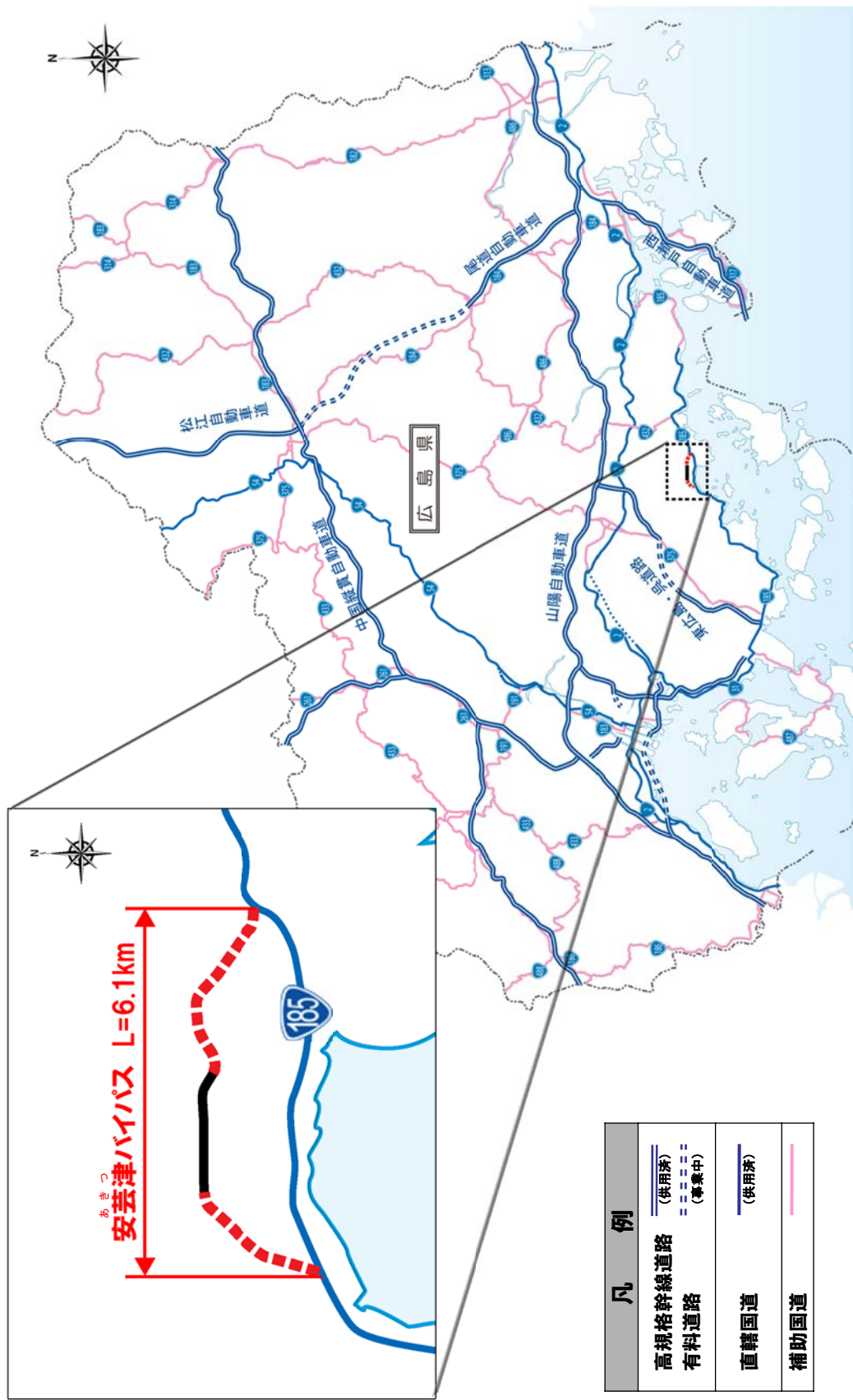
国土交通省 中国地方整備局

1. 位置図

一般国道185号 安芸津バイパス

- ・一般国道185号は、広島県呉市から三原市へ至る延長約72kmの主要幹線道路である。
- ・安芸津バイパスは、東広島市安芸津町から竹原市吉名町に至る延長6.1kmの道路である。

＜拡大図＞



2. 事業概要及び経緯

(1) 事業概要

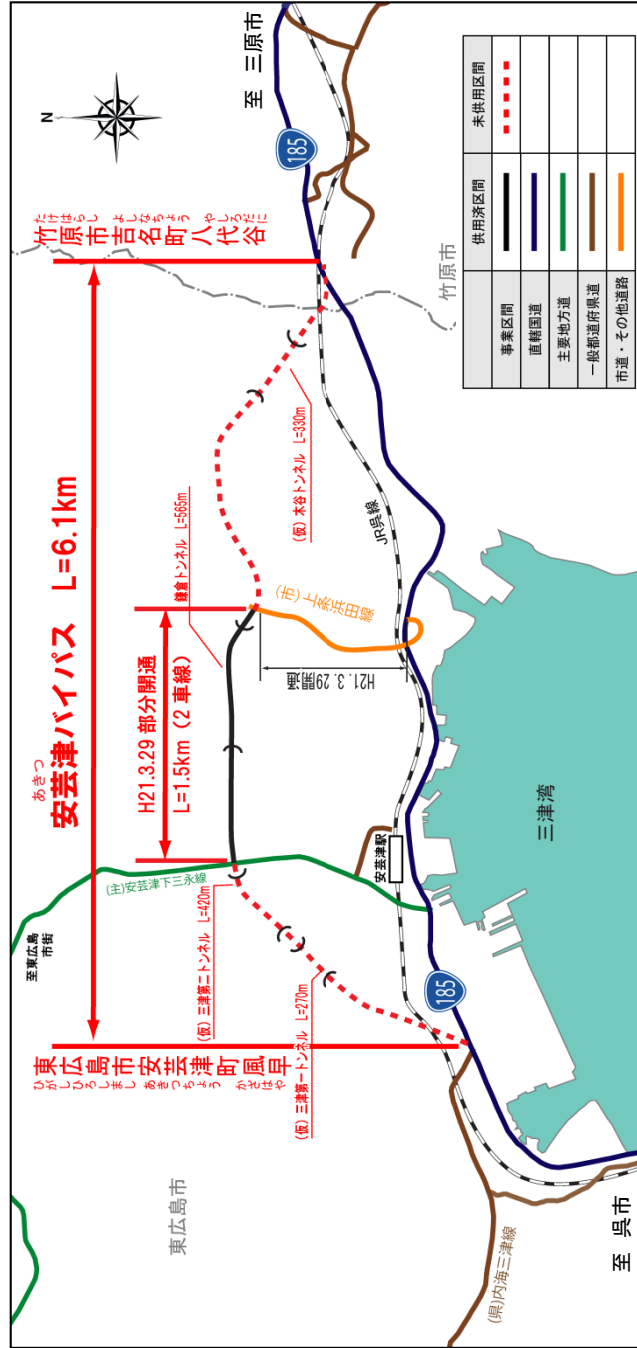
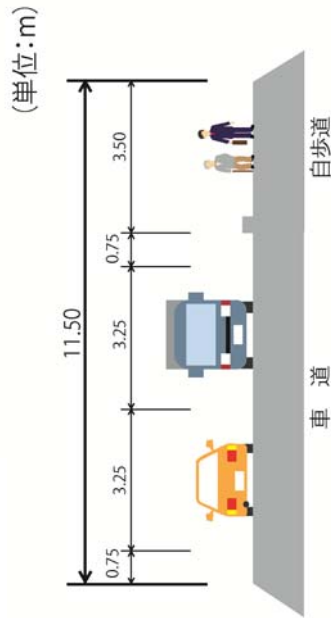
一般国道185号 安芸津バイパス

一般国道185号安芸津バイパスは、異常気象時の高潮や越波による路面冠水区間の回避や、津波浸水により到達が困難となる地域への緊急物資輸送を目的とするとともに、道路幅員が狭く平面曲線や縦断勾配の急な区間などの道路線形不良箇所が多数ある現道において、安全性の向上による地域経済の活性化・産業活動の効率化などを目的とした道路である。

計画概要

起 終 点	起点：東広島市安芸津町風早 終点：竹原市吉名町八代谷
計 画 延 長	L=6.1km
道 路 規 格	第3種第2級（設計速度60km/h）
車 線 数	2車線

標準断面図

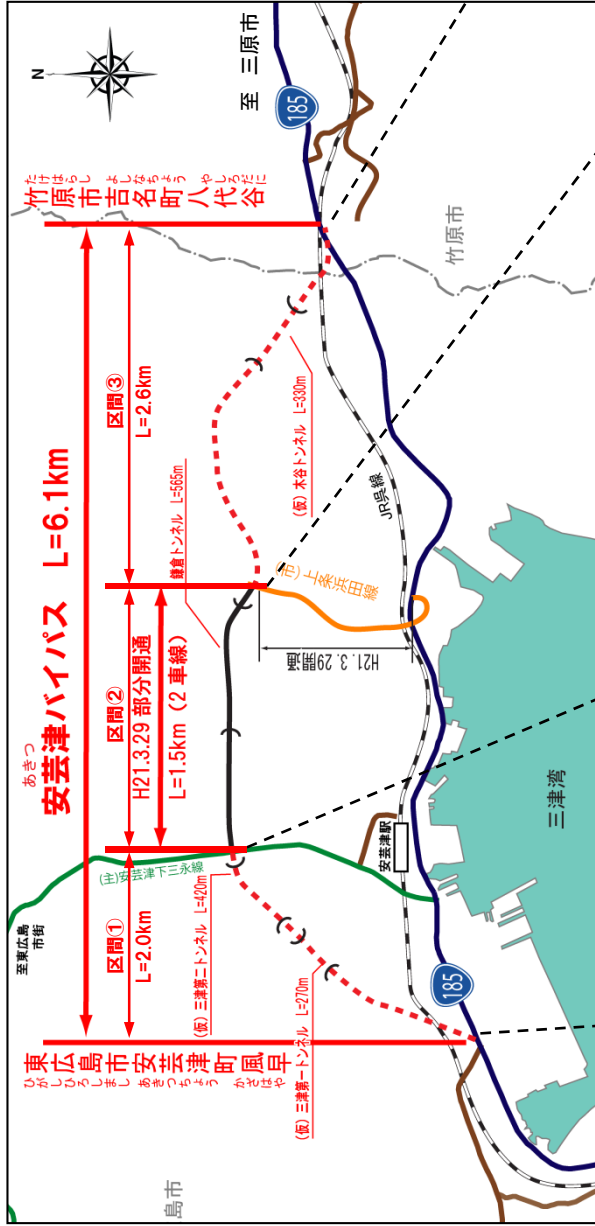


2. 事業概要及び経緯

(2) 事業の経緯

一般国道185号 安芸津バイパス

- 平成11年度に事業化し、(主)安芸津下三永線から(市)上条浜田線間の1.5kmを、平成21年3月29日に部分開通している。
- 平成23年度に都市計画変更(車線数を4車線→2車線へ変更)を行っており、平成25年度から地元設計協議を開始している。



事業区間	供用済区間	未供用区間
直轄国道	■	■
主要地方道	■	■
一般県道	■	■
市道・その他道路	■	■

区間		起点～安芸津下三永線	(主)安芸津下三永線～(市)上条浜田線	(市)上条浜田線～終点
年度		あきつしもみがせん	あきつしもみがせん	かみじょうはまだせん
平成10年度	都市計画決定(平成11年3月)			
平成11年度	事業化			
平成13年度			用地着手	
平成17年度			工事着手	
平成20年度			平成21年3月29日部分開通	
平成21年度	中国地方整備局事業評価監視委員会にて再評価(2車線へ見直すことにより事業継続)			
平成22年度	中国地方整備局事業評価監視委員会にて再評価を実施			
平成23年度	都市計画変更(車線数を4車線から2車線へ変更)			
平成25年度	地元設計協議開始	-		地元設計協議開始

事業経緯

事業経緯

2. 事業概要及び経緯

(3) 進捗状況

一般国道185号 安芸津バイパス

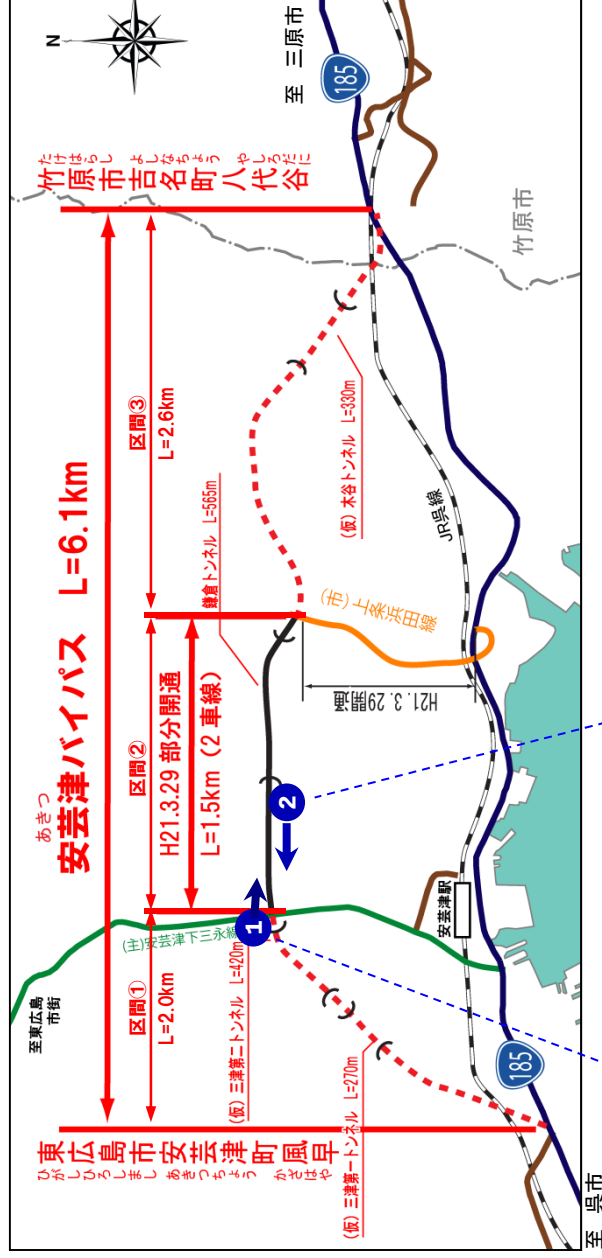
- ・(主)安芸津下三永線から(市)上桑浜田線間の1.5kmを平成21年3月29日に部分開通(2車線)。
- ・現在、残る区間の調査・設計を実施している。

事業全体の進捗状況(平成25年3月時点)

用地	32%
工事	31%
全体	31%

※総事業費に対する割合

	供用済区間	未供用区間
事業区間	■	■■■■
直轄国道	■	
主要地方道	■	
一般都道府県道	■	
市道・その他道路	■	



【写真①】(主)安芸津下三永線付近から鎌倉トンネルを望む



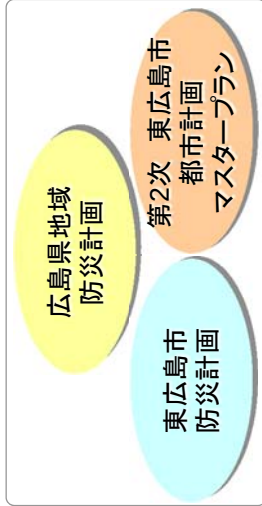
【写真②】安芸津バイパスから(主)安芸津下三永線を望む

撮影：平成25年10月

自治体の防災計画における位置付け

一般国道185号 安芸津バイパス

＜道路ネットワークの位置付け＞



災害に対する対策が
求められている

広島県緊急輸送道路
ネットワーク計画

広島県地域防災計画(H25. 5)抜粋

震災対策編・津波災害対策計画

第2章 災害予防計画

第2節 防災都市づくりに関する計画

1 方針

地震・津波発生時には、わが県においても、建物の倒壊、火災、ライフラインの寸断、交通機関の途絶等による被害の発生が予想される。

2 防災上重要な公共施設の整備

イ 緊急輸送道路等の整備

災害時に緊急車両の円滑な通行を確保するために、「緊急輸送道路ネットワーク計画」に基づき、国道及び幹線道路の整備を進め、県内各市町の中心部を結ぶ多重ネットワークを構築する。

東広島市地域防災計画(H18. 2)抜粋

第2章 災害予防計画

第1節 防災まちづくりに関する計画

第2 防災上重要な公共施設の整備

2 緊急輸送道路の整備

(2)緊急輸送道路ネットワーク等の整備
県は、災害時に緊急車両の円滑な通行を確保するために、「緊急輸送道路ネットワーク計画」に基づき、国道及び幹線道路の整備を進め、県内各市町の中心部を結ぶ多重ネットワークを構築している。

第2次 東広島市都市計画マスタープラン(H23. 5)抜粋

第3章 分野別形成方針

4. 災害に強い都市づくりの方針

(1)災害に強い都市基盤の整備

「東広島市地域防災計画」に基づき、災害時における救助活動や支援物資の輸送を支える道路網の構築に向けて、主要幹線道路の整備を推進するとともに、道路や橋梁の耐震性の向上を図ります。

広島県緊急輸送道路ネットワーク計画(H25. 6)抜粋

広島県緊急輸送道路ネットワーク計画は、平成7年の阪神・淡道大震災を契機に地震直後から発生する救命活動・物資輸送など緊急輸送を迅速かつ確実に実施する目的で、平成8年度に策定し、幹線道路整備の進捗及び広域市町村合併がおおむね完了したことを受け、平成18年度に見直しを行ってきた。

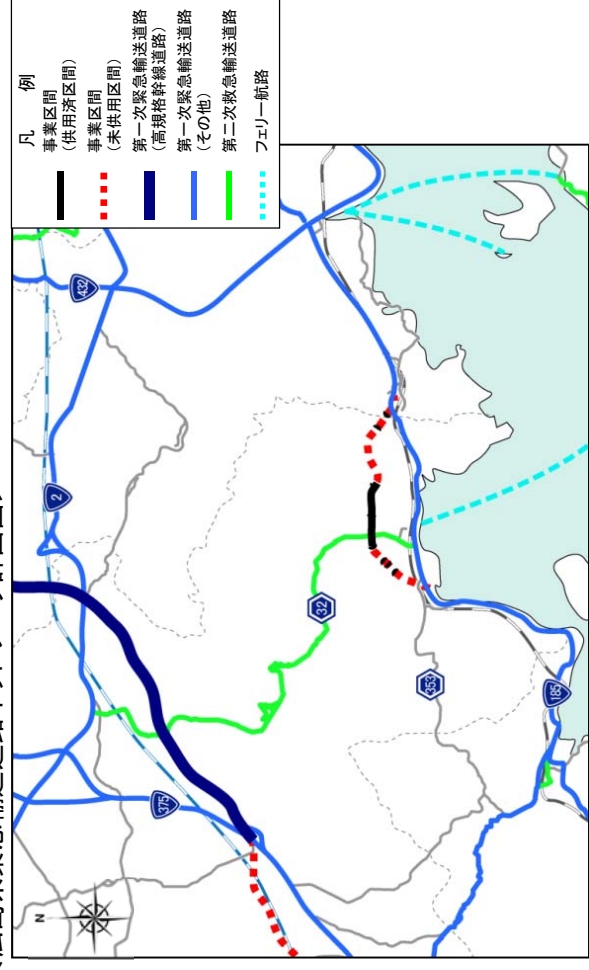
今回、東日本大震災を契機に、大規模災害に備えた取り組みが検討され、地域防災計画の修正が行われていることや道路整備が進展していることなどを踏まえ、広島県緊急輸送道路ネットワーク計画の見直しを行うこととし、国・県・政令市などの道路管理者、警察、防災部局などで構成する広島県緊急輸送道路ネットワーク計画など策定協議会で検討していましたが、このたび、広島県緊急輸送道路ネットワーク計画が決定しましたのでお知らせします。

※緊急輸送道路とは

地震直後から発生する緊急輸送を迅速かつ確実に実施するために必要な道路であり、道路の耐震性が確保されているとともに、地震時にネットワークとして機能するものである。

この緊急輸送道路については、災害が発生した場合、災害応急対策のため、緊急通行車両以外の通行を禁止または制限することがあります。

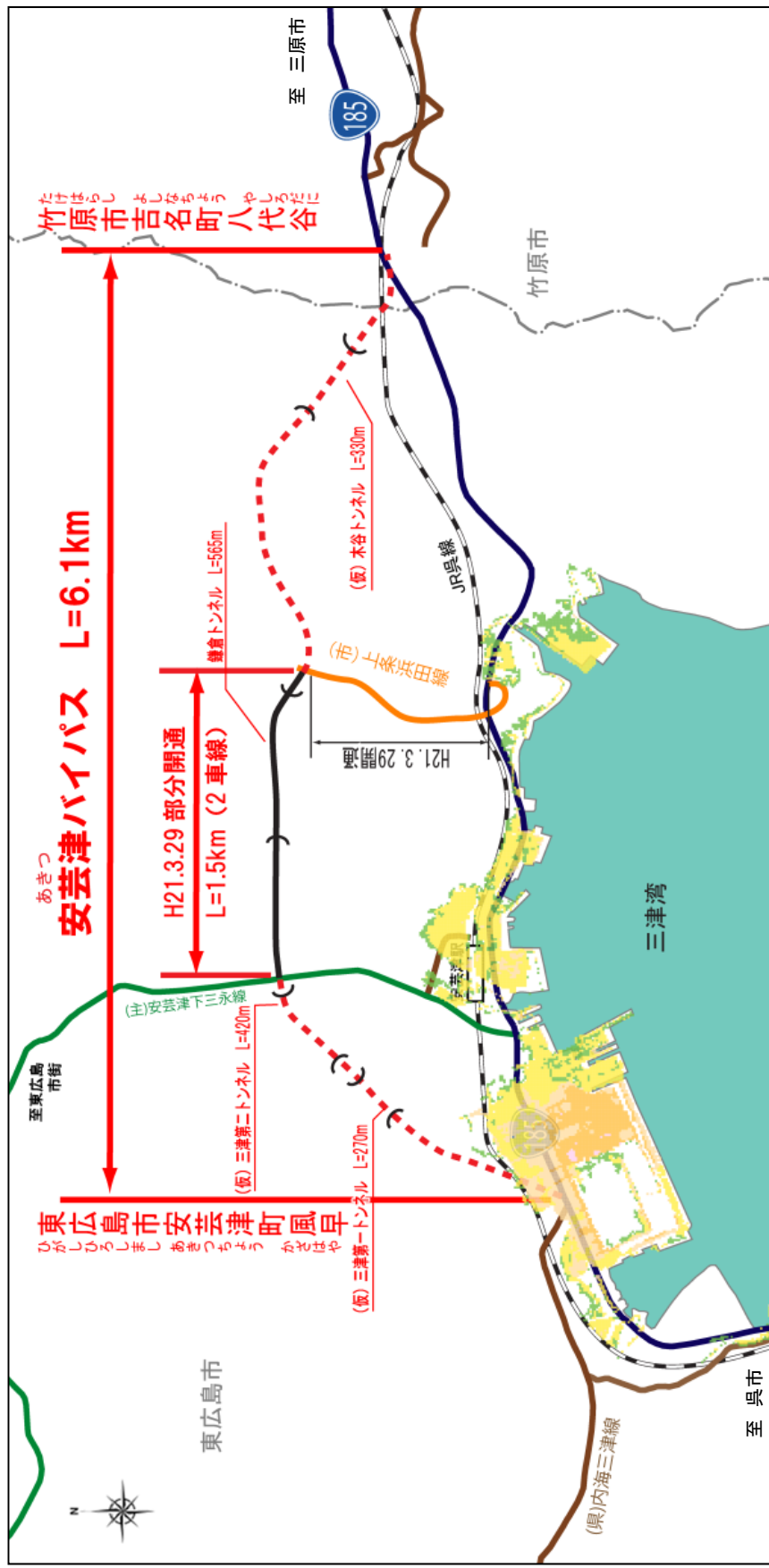
＜広島県緊急輸送道路ネットワーク計画図＞



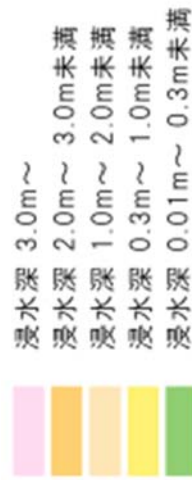
3. 前回評価時からの主な周辺状況の変化

一般国道185号 安芸津バイパス

・東日本大震災を踏まえ、広島県において津波浸水想定が新たに公表された。



津波浸水想定
(最大クラスの津波想定)



最大クラスの津波とは
発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波

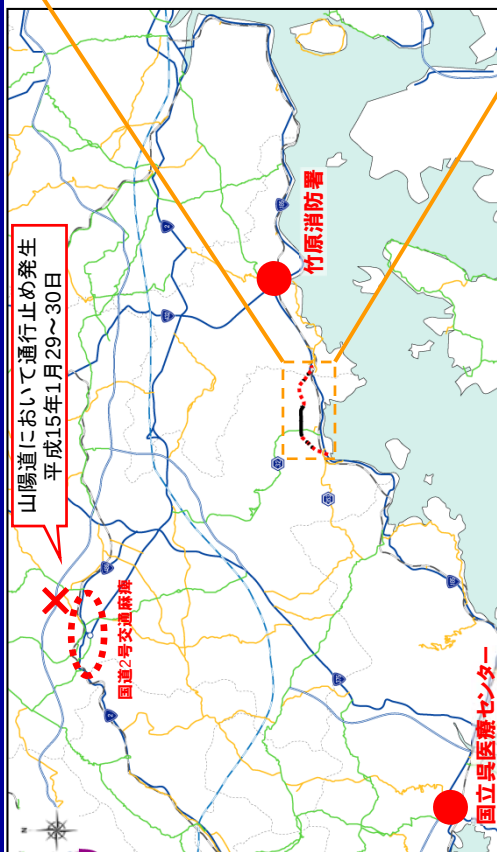
浸水想定について

- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域
- 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置に來た時の地面から水面での高さ

出典: 広島県津波浸水想定
(広島県危機管理課 H25年3月)

4. 地域から期待される道路の役割（効果）

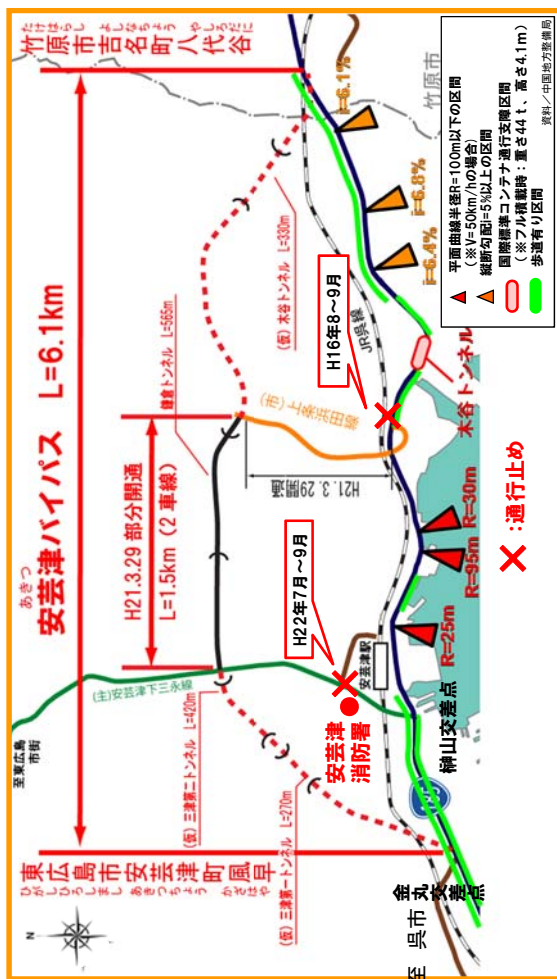
一般国道185号 安芸津バイパス



山陽道において通行止め発生
平成15年1月29～30日



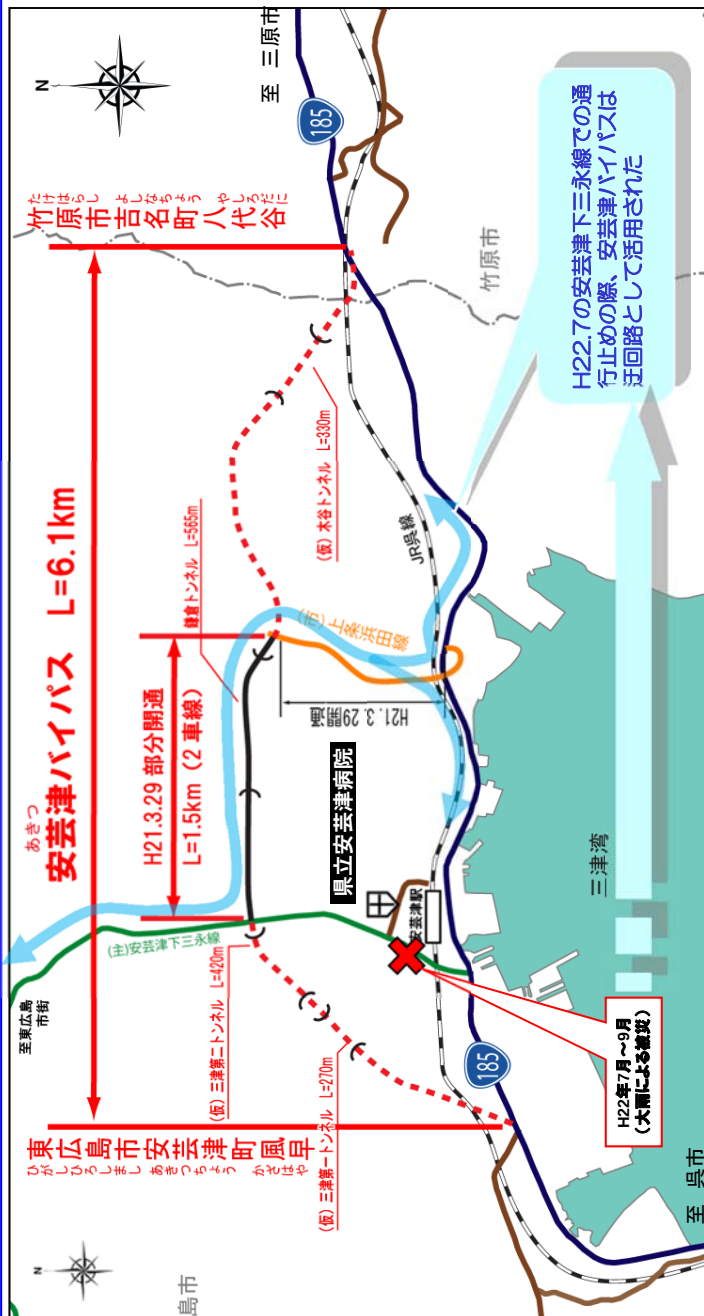
× : 通行止め × : 交通麻痺



	課題	<期待される道路の役割(効果)>
異常気象時	課題① 災害による通行止め	通行止めによる迂回路の確保、大幅な迂回の解消、代替性機能の確保、津波浸水時の通行機能の確保
平常時	課題② 道路線形不良箇所等の存在	道路線形不良箇所等の解消による走行安全性の確保
	課題③ 交通事故の発生	交通事故件数の削減
	課題④ 道路構造に課題のある区間の存在	国際標準コンテナ車通行支障区間解消による物流の効率化
	課題⑤ 地域医療の支援	安静搬送が可能になることによる住民の安心・安全な暮らしを支援

あきつ しもみなが

- ・(主)安芸津下三永線では、大雨による道路被災により通行止めが発生。
- ・その際には、バイパス部分供用区間が迂回路として活用された。



【平成22年7月 大雨による被災状況】

大雨による通行止



- ・全面通行止
：平成22年7月14日～平成22年8月11日（28日間）

※被災箇所：(主)安芸津下三永線

地域住民からの声

- 安芸津バイパスが一部開通しているおかげで迂回路が確保でき、バスも運行されて大変助かった。
- JR南側から県立安芸津病院までの道路が確保できて良かった。

資料：広島国道事務所調べ

4. 地域から期待される道路の役割（効果）

課題①ー2. 災害による通行止め（通行止めによる大幅な迂回）

- ・台風による越波や高潮（路面冠水）より、国道185号の通行止めが発生。
- ・その際、大幅な迂回を強いられるなど、物流や地域の生活に影響を与えている。



【平成16年9月7日 台風18号による被災状況】



越波や路面冠水による通行止

台風16号 (H16.8.30)
: 路面冠水 (約3時間の全面通行止)

台風18号 (H16.9.7)
: 路面冠水 (約30分の全面通行止)

常陸洪水地域

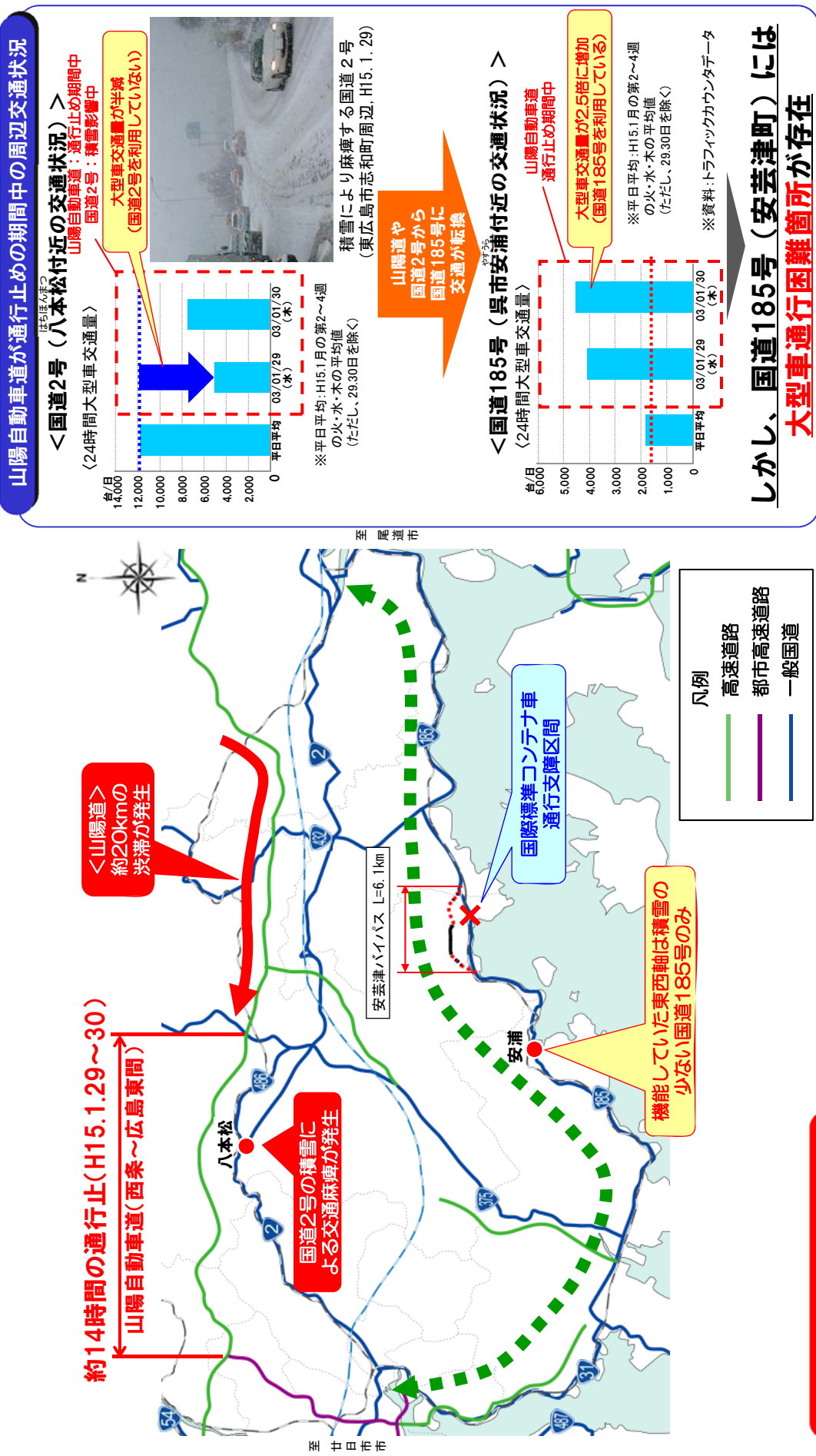
異常時

4. 地域から期待される道路の役割（効果）

一般国道185号 安芸津バイパス

課題①ー3. 災害による通行止め（国道2号等の代替性機能の確保）

- ・東広島市周辺では、積雪により東西軸である山陽道と国道2号の両路線がマヒする事態が発生。
- ・代替路線として期待される国道185号では、安芸津町内の道路線形不良箇所が存在で大型車の通行が困難。



期待される道路の役割(効果)

バイパス整備により国道185号の道路線形不良箇所を解消し、山陽道及び国道2号の代替機能として効果が図られる。

4. 地域から期待される道路の役割（効果）

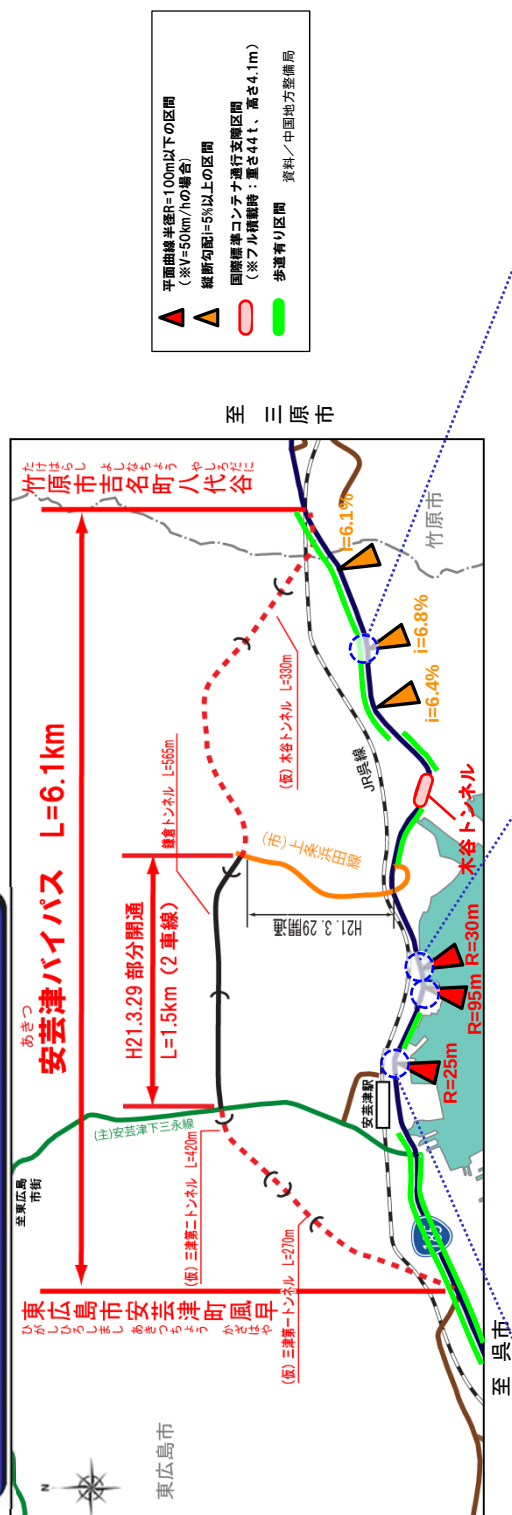
課題①-4. 災害による通行止め（津波発生時の通行機能の確保）

・バイパスの整備により、竹原市方面へのアクセスが可能となり緊急物資の輸送が可能となる。

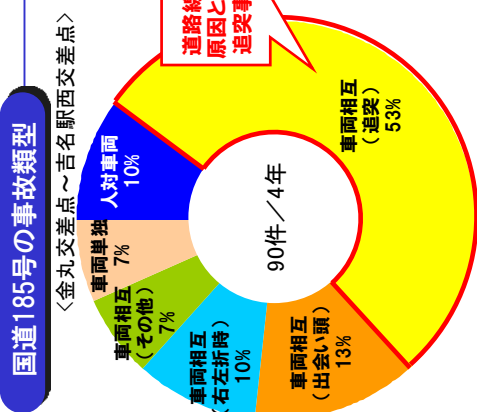
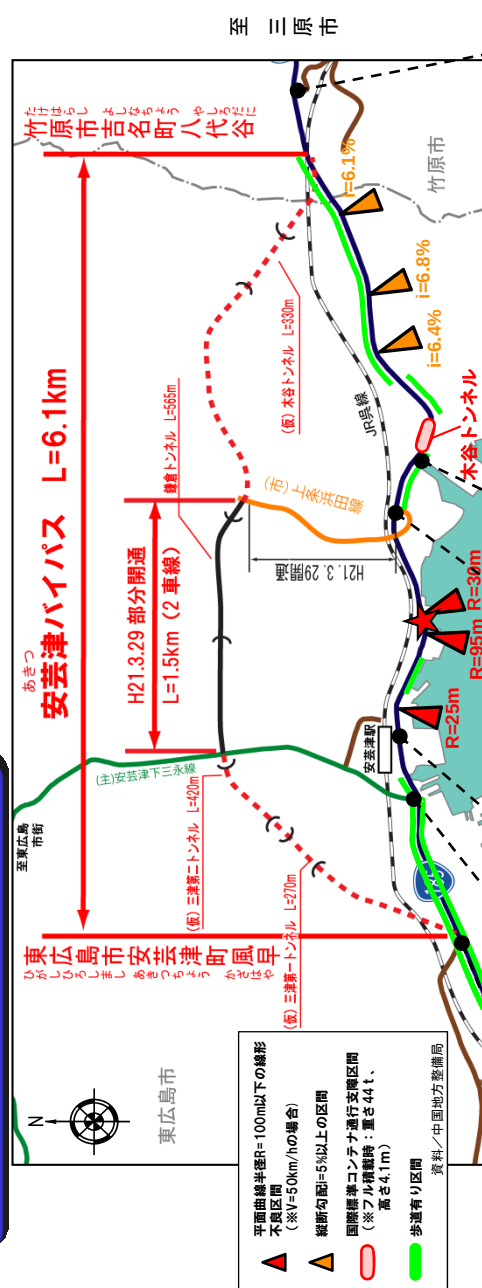


- ・国道185号(安芸津バイパス並行区間)には、道路幅員が狭く、平面曲線や縦断勾配の急な区間等の道路線形不良箇所や歩道未整備区間が存在しており、安全性が損なわれている。

国道185号安芸津町の道路線形不良箇所等

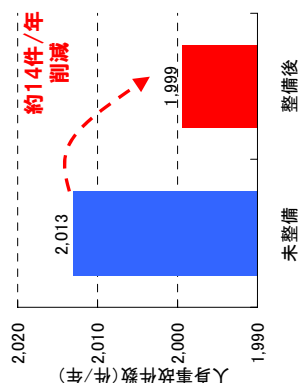


国道185号安芸津町の事故発生状況

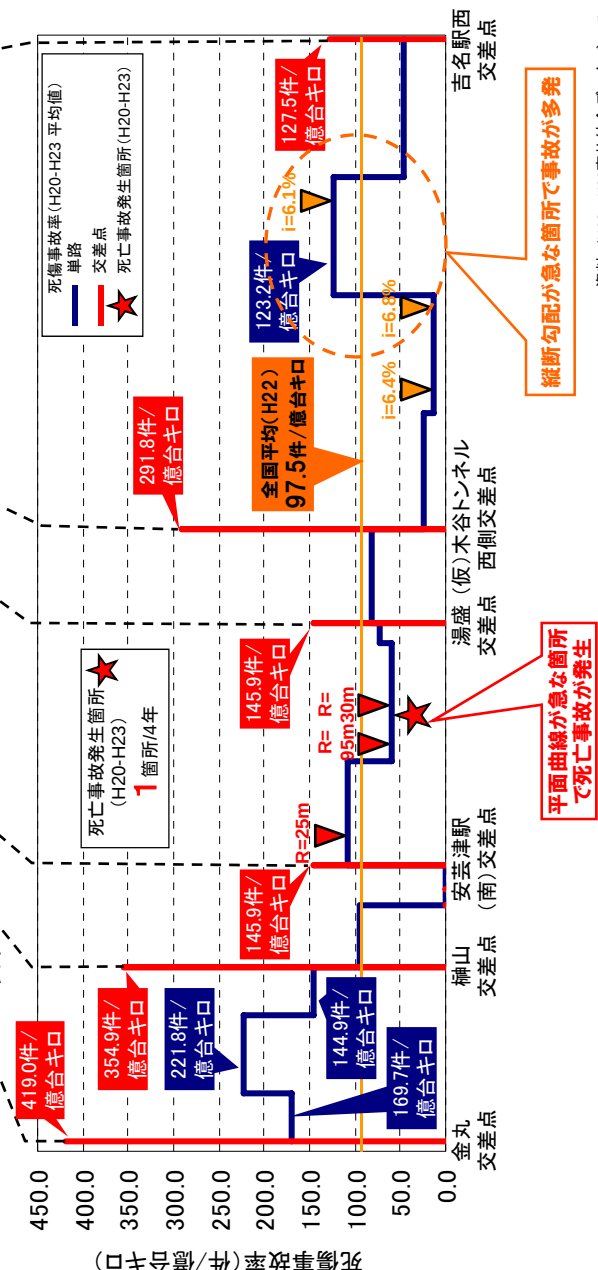


資料／H20～H23事故統合データベース

＜死傷事故件数の削減量＞



- ※H42交通量配分結果をもとに、安芸津バイパスの整備有無のケースの交通量を用いて算出
- ※死傷事故件数算定式：交通事故減少便益の算出方法（H20年11月 国土交通省）

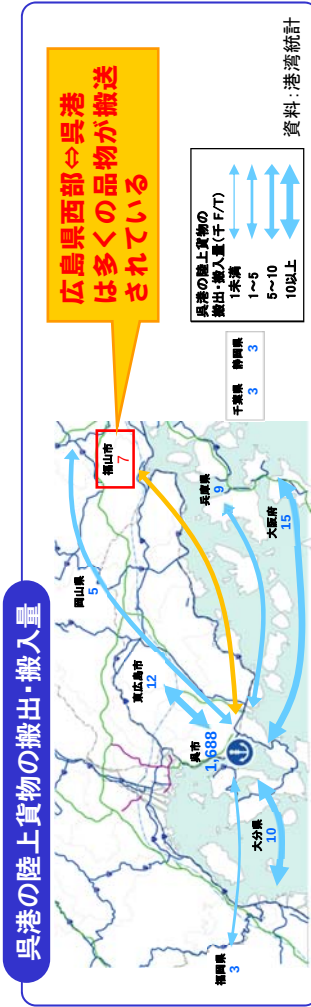
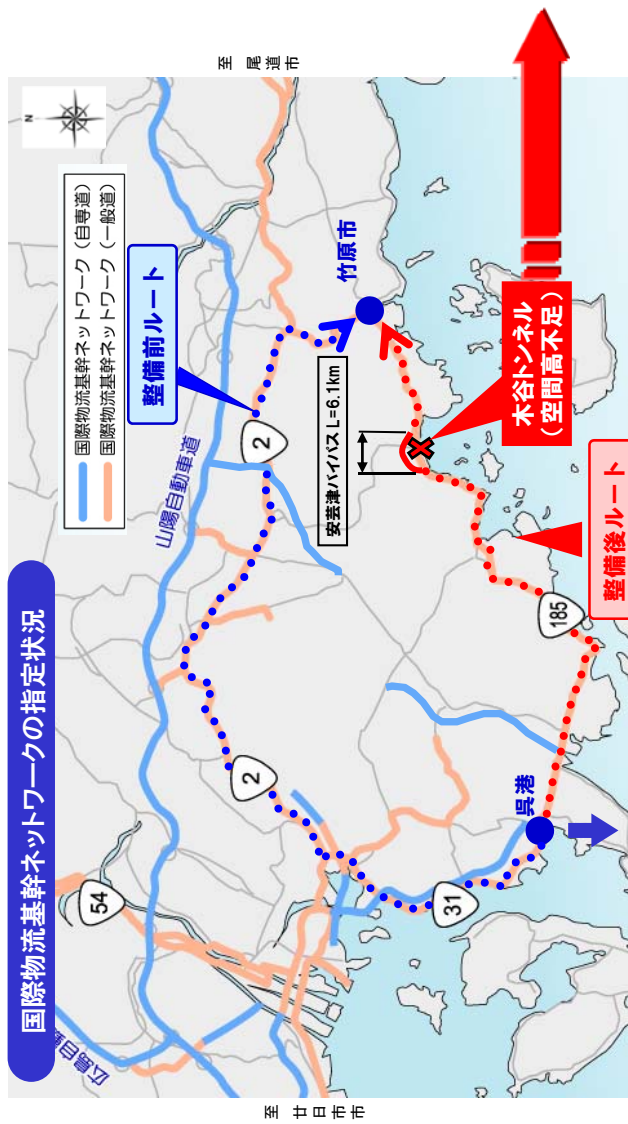


資料/H20～H23事故統合データベース

4. 地域から期待される道路の役割（効果） 課題④．道路構造に課題のある区間の存在

一般国道185号 安芸津バイパス

- ・国道185号は「国際物流基幹ネットワーク」※1に選定されており、国際コンテナ通行支障区間※2である「木谷トンネル」に対する対策が必要。
- ・呉港などの港湾から陸上輸送する際、通行支障区間の迂回による時間ロスに伴う搬送コストの増加が国際競争力強化の観点から課題となっている。
- ・バイパスの整備により国際コンテナ車通行支障区間が解消され、物流の効率化が図られる。



- ※1 国際物流基幹ネットワーク
総合物流施策大綱（2005-2009）等を踏まえ、中国地方における効率的な物流ネットワークを構築する観点から、既存の幹線道路網の中から選択された、国際標準コンテナ車の通行を可能とすべき約2千9百kmの幹線道路ネットワーク。
- ※2 国際コンテナ通行支障区間
国際標準コンテナ車（44t、4.1m）が通行する際に、物理的支障のある区間のこと。

期待される道路の役割（効果）

バイパス整備により、国際標準コンテナ車の通行支障区間が解消され、物流の効率化が図られる。

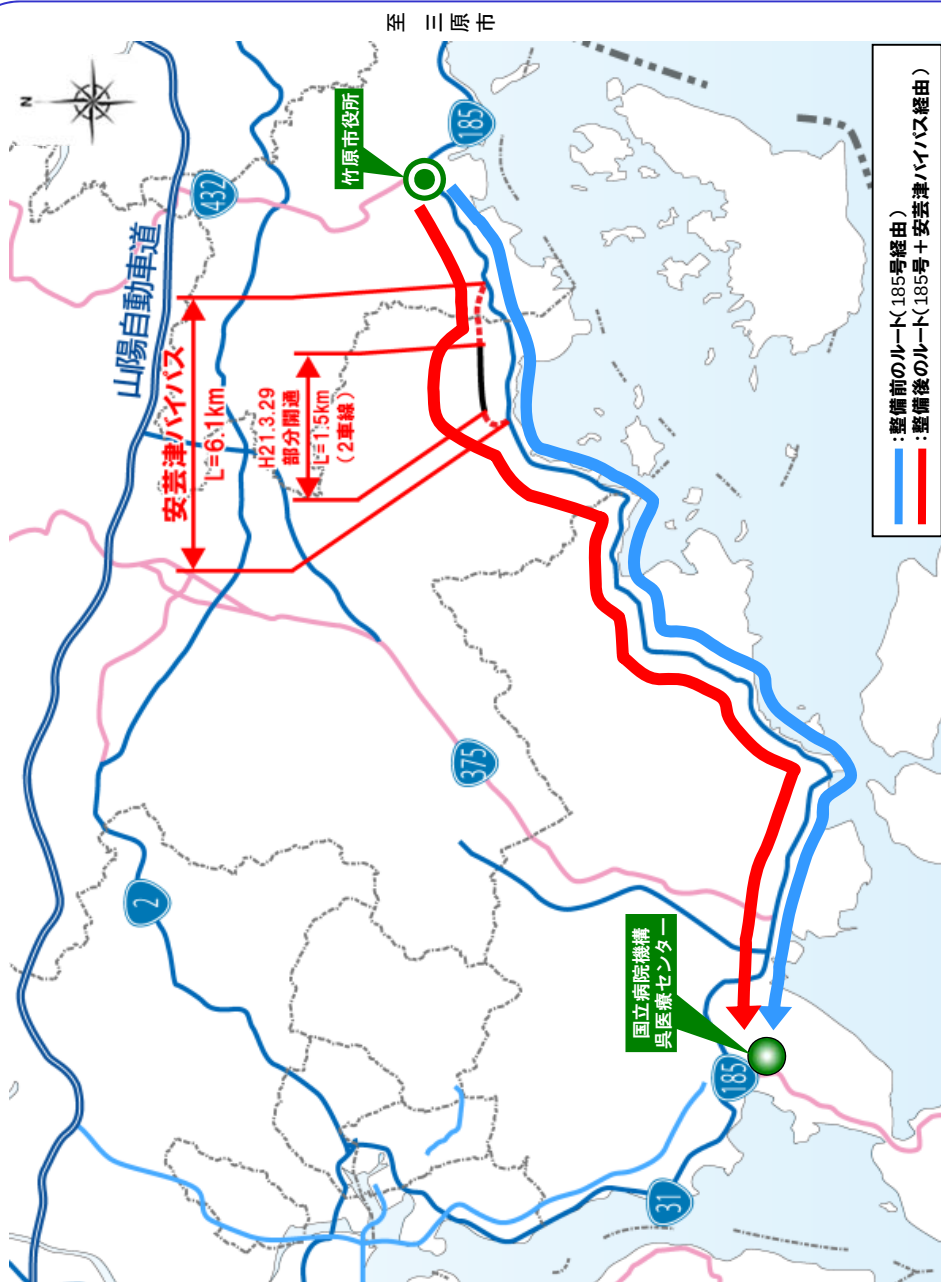
4. 地域から期待される道路の役割（効果）

課題⑤. 地域医療の支援

一般国道185号 安芸津バイパス

- ・東広島市には第三次救急医療施設がないため、竹原市からの重篤患者は呉医療センターに搬送している。
- ・バイパス整備による国道185号の道路線形不良箇所の解消により、安静搬送が可能となり、住民の安心・安全な暮らしを支援する。

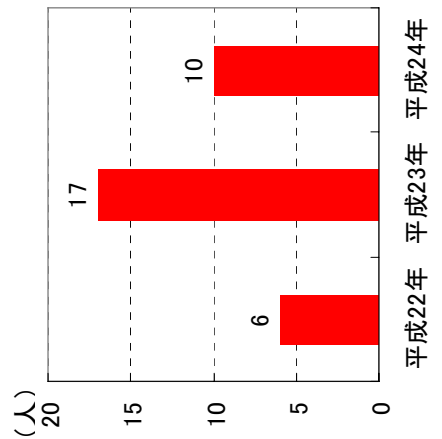
三次医療施設への救急搬送



※第三次救急医療施設・・・初期・第二次救急医療機関では対応できない重篤な救急患者に対し高度な医療を総合的に提供する医療機関

高次医療施設への搬送実績

竹原市から呉医療センター
(三次医療施設)への搬送実績



資料：東広島市消防局（各年1～12月の間）

地元消防署からの声

- 安芸津バイパスへの期待
- 竹原市から呉医療センターへの搬送について185号の線形が悪い区間を経由する必要がなくなること、安静搬送が可能となり患者負担の面から大きな効果があると思われる。

資料：東広島市消防局ヒアリング結果（H24.12）

5. 事業効果

CVM（仮想市場法）による便益計測

一般国道185号 安芸津バイパス

◆CVM（仮想市場法）による便益計測

CVM（仮想市場法）により負担金の支払意思額（WTP）を計測

⇒ 便益 = 支払意思額（WTP）× 集計世帯数 × 評価期間（供用後50年間）

- ・災害発生時の迂回ルートの確保による不安解消効果
- ・線形不良箇所の走行に伴う精神的疲労の軽減効果
- ・新設道路への交通転換による並行現道の歩行者・自転車通行の快適性向上効果
- ・医療サービスが享受出来なくなる不安解消効果

（１）住民アンケートによる支払意思額の調査（H23.2 実施）

- ・事業箇所の利用交通があり、事業の効果に対する意識が高いと考えられる地域を調査範囲として、インターネット調査（WEB調査）を実施。

- 配布エリア（旧市区町村名で記載）

竹原市、安芸津町、呉市、音戸町、倉橋町、下蒲刈町、蒲刈町、安浦町、川尻町、豊浜町、豊町、三原市、大和町、本郷町、久井町、東広島市、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町

- 配付・回収状況

配付数：6,028通

回答数：878通（回収率：14.6%）

（２）支払意思額の推計

- ・アンケートの有効回答をもとに、支払い意思額（WTP）を推計。

- 有効回答率657通（74.9%）（便益算定エリア回答数：877通）

（３）年便益の算定

- ・アンケートの有効回答の平均支払意思額を基に、年便益額を算定

※ 便益算定範囲の世帯数は、事業箇所の利用交通があり、事業の効果に対する意識が高いと考えられる地域を対象とする。

便益算定範囲（旧市区町村名で記載）

竹原市、安芸津町、呉市、音戸町、倉橋町、安浦町、川尻町、三原市、大和町、本郷町、東広島市、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町

（４）総便益の算定

- ・評価期間を供用後50年間とし、現在価値を算定。

▼効果項目別WTP、便益算定結果【安芸津バイパス】

効果項目	支払意思額 (WTP) (円/月/世帯)	便益算定 世帯数 (H22)	年便益 (億円/年)	総便益 (億円)
災害時の迂回ルートの確保による不安解消効果	95	226,003	3	41
線形不良箇所の走行に伴う精神的疲労の軽減効果	128		3	56
新設道路への交通転換による並行現道の歩行者・自転車通行の快適性向上効果	99		3	43
通行止時の医療サービスが享受できなくなる不安解消効果	107	12	3	47
合計	429		12	187

世帯数の資料／H22国勢調査

6. 整備効果

一般国道185号 安芸津バイパス

◆試算した効果のとりまとめ(現在価値)

①災害時の迂回解消を含めた走行時間の短縮等

期待される道路の役割	定量化を試みた効果	貨幣換算を試みた効果
・移動時間の短縮 ・移動時間の短縮等に伴う経費の減少 ・道路機能の向上による交通事故の減少	・人、車両、貨物の移動における短縮時間 ・総走行距離の短縮 ・道路種別毎の利用交通量の変化	・走行時間短縮便益 (217億円) ・走行経費減少便益 (23億円) ・交通事故減少便益 (8億円)

②地域住民の不安感の解消

・災害時の迂回ルートの確保による不安解消	・災害による通行止の解消 0.014日/年 → 解消 ・災害時の迂回ルートの確保による不安解消効果 (41億円)※ ・通行止時の医療サービスが享受できなくなる不安解消効果 (47億円)※
----------------------	---

③その他

・隘路区間や線形不良箇所の解消による安全・安心の確保	・急カーブ(R<100m) 3箇所 → 解消 ・急勾配(1>5%) 4箇所(0.9km) → 解消	・線形不良箇所の走行に伴う精神的疲労の軽減効果 (56億円)※
交通容量の確保による交通混雑の緩和、治道環境の改善	・治道環境の改善 NOx排出量 3,121 → 3,114t/年 SPM排出量 161.2 → 160.8t/年 CO2排出量 1,141 → 1,139千t-CO2/年	・新設道路への交通転換による並行現道の歩行者・自転車通行の快適性向上効果 (43億円)※ ・CO2排出量の削減 (0.3億円)※

※ 参考値(供用後50年間の便益額として試算した値)

・将来交通需要推計の改善について【中間とりまとめ】に示された第二段階の改善を反映。

◆見直し後の総費用(現在価値)

項目	全体事業費	残事業費
事業費	173億円	103億円
維持管理費	17億円	12億円
計	189億円	115億円

7. 今後の対応方針（原案）

一般国道185号 安芸津バイパス

1. 再評価の視点

①事業の必要性の視点

1) 事業を巡る社会情勢等の変化

◇ 国道185号（安芸津バイパス並行区間）には、道路幅員が狭く、平面曲線や縦断勾配の急な区間等の道路線形不良箇所や歩道未整備区間が存在しており、地域の安全性が損なわれている。
◇ 異常気象時に高潮や越波により路面冠水が生じる区間であること、また津波浸水想定範囲にもなっており、防災上の機能が求められている。

2) 事業の投資効果

◇ 異常気象時
○ 災害による通行止め → 通行止めによる迂回路の確保、大幅な迂回の解消、代替性機能の確保、津波浸水時の通行機能の確保
◇ 平常時
○ 道路線形不良箇所等の存在 → 道路線形不良箇所等の解消による走行安全性の確保
○ 交通事故の発生 → 交通事故件数の削減
○ 道路構造に課題のある区間の存在 → 国際標準コンテナ車通行支障区間解消による物流の効率化
○ 地域医療の支援 → バイパス整備による国道185号の道路線形不良箇所の解消により、安静搬送が可能となり、住民の安心・安全な暮らしを支援。

3) 事業の進捗状況

◇ 平成25年3月時点で、用地買収は32%、工事進捗率約31%（全体約31%）が完了しており、現在までに1.5kmを供用している。

②事業の進捗見込み

◇ 今後も段階的に整備し、早期完成を目指して事業を推進する。

③コスト縮減や代替案立案の可能性

◇ 今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減を図りつつ事業を推進していく。

2. 県・市への意見照会結果

広島県知事の意見：対応方針（原案）については妥当

安芸津バイパスは、現道において、異常気象時に越波や路面冠水による通行止めが発生している区間があり、防災上の観点から重要な道路であると考
えております。現在、一部区間が供用されているものの交通転換が進まず、バイパスとしての機能が十分に発揮されていない状況となっております。今後も
引き続きコストの縮減に努めながら、早期の供用開始に向け、計画的に整備を進めていただきたい。

【今後の対応方針（原案）】

- ・上記①、②の各視点により、防災面の効果が特に高いことから、今後とも事業継続が妥当。
- ・今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ、効率的な事業実施に努める。

一般国道185号安芸津バイパス
〔費用便益比（B／C）算定等資料〕

様式 1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道185号 安芸津バイパス
事業主体	中国地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

	指 標	指標チェックの根拠
前提条件	■ 便益が費用を上回っている	①災害時の迂回解消を含めた走行時間の短縮等：217億円 ②不安感の解消（災害時の迂回ルートの上乗せ効果等）：88億円

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標	指 標（対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは口を■に変更）	指標チェックの根拠
1. 活力 内消なまどり ディの確保	● 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率	区間a（費用便益分析対象区間）について 渋滞損失時間（現況）：23,684千人・時間/年 渋滞損失削減時間：618千人・時間/年（23,684千人・時間/年⇒23,065千人・時間/年） 区間b（当該区間／並行区間）について：（後当区間）一般国道185号（東広島市安芸津町風早～竹原市中央3丁目） 並行区間等（当該区間）の渋滞損失時間：513千人・時間/年 並行区間等（当該区間）の渋滞損失削減率：約4割削減（513千人・時間/年⇒304千人・時間/年）
	□ 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	
	□ 現道又は並行区間等における踏切交通通断量が10,000台時/日以上踏切道の除却もしくは交通改善が期待される	
	■ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する	利便性向上が見込まれるバス路線：西条・安芸津・竹原線（14便/日）、西条・安芸津・大芝線（8便/日）のバス路線
	□ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる	
物流効率化の支 援	□ 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	
	■ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる	対象港湾：呉港、対象自治体名：竹原市 改善見込み（呉港～竹原市役所、79分⇒77分）
	□ 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上	
	■ 現道等における、総重量25tの車両もしくは180規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する	国際標準コンテナ車通行支障区間 木谷トンネル（空間高不足）を解消
	□ 都市再生プロジェクトを支援する事業である	
都市の再生	□ 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する	
	□ 市街地再開発、区画整理等の計画まちづくりとの連携あり	
	□ 中心市街地内で行う事業である	
	□ 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内での事業である	
	□ 010区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する	
	□ 対象区間が現在連絡道路がない住宅地開発（300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上）への連絡道路となる	

1. 活力	国土・地域ネットワークの構築	☐ 高速自動車国道と並行する自専道（A'路線）としての位置づけ有り	
		☐ 地域高規格道路の位置づけあり	
		☐ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	
		☐ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	
		☐ 現道等における交通不能区間を解消する	
		☒ 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する	幅員狭小区間（三津大橋区間W=5.9m）、平面線形不良区間（最小曲線半径R _{min} =25m）などの大型車すれ違い困難区間を解消
		☐ 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	
		☐ 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する	
		☐ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する	
		☐ 主要な観光地へのアクセス向上が期待される	
2. 暮らし	個性ある地域の形成	☐ 特別立法に基づく事業である	
		☐ 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である	
		☐ 歴史的景観を活かした道路整備や中心商店街のシンボリックな道路整備等、特色あるまちづくりに資する事業である	
		☐ 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上に該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる	
		☐ 交通バリアフリー法における道路特定事業に位置付けがある、または、交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化される	
		☐ 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り	
		☐ 市街地又は歴史景観地区（歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区）の幹線道路において新たに無電柱化を達成する	
		☒ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	対象となる三次医療施設名称：呉医療センター
		安全で安心できるくらしの確保	

3. 安全	安全な生活環境の確保	☐ 現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる ☐ 当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上（当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上）かつ歩行者交通量100人/日以上（当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上）の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される ☒ 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する ☒ 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり ☒ 緊急輸送道路が通行上になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	
		☐ 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する（A'路線としての位置づけがある場合） ☐ 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくはは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される ☐ 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する ☐ 避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加する ☐ 幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する ☐ 密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯の役割を果たす	
		☒ 対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量 ☒ 現道等における自動車からのNO2排出削減率 ☒ 現道等における自動車からのSPM排出削減率 ☐ 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある ☐ その他、環境や景観上の効果が期待される	
		☐ 道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている ☐ 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり ☐ 他機関との連携プログラムに位置づけられている ☐ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が買込まれる	
4. 環境	地球環境の保全		CO2排出削減量：1,7千t/年（整備なし 1,140.9千t/年⇒整備あり 1,139.2千t/年）
	生活環境の改善・保全		評価対象区間：便益算出対象エリア 排出削減量：6.9t/年（整備なし 3,120.8t/年⇒整備あり 3,113.8t/年）
			評価対象区間：便益算出対象エリア 排出削減量：0.4t/年（整備なし 161.2t/年⇒整備あり 160.8t/年）
5. その他	他のプロジェクトとの関係		

費用と便益の内容

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・ＢＰ・その他の別
一般国道185号	安芸津バイパス	L=6.1km	二次改築	ＢＰ

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
8,400～9,900	2	中国地方整備局

① 費 用

	事業費	維持管理費	合 計
基 準 年	平成25年度		
単純合計	179億円	50億円	228億円
うち残事業分	122億円	35億円	157億円
基準年における 現在価値（Ｃ）	173億円	17億円	189億円
うち残事業分	103億円	12億円	115億円

② 便 益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合 計
基 準 年	平成25年度			
供 用 年	平成32年度			
単年便益 (初年便益)	13億円	1.4億円	0.53億円	15億円
基準年における 現在価値（Ｂ）	217億円	23億円	8.5億円	248億円
うち残事業分	141億円	17億円	5.4億円	163億円

交通状況の変化

様式－3①

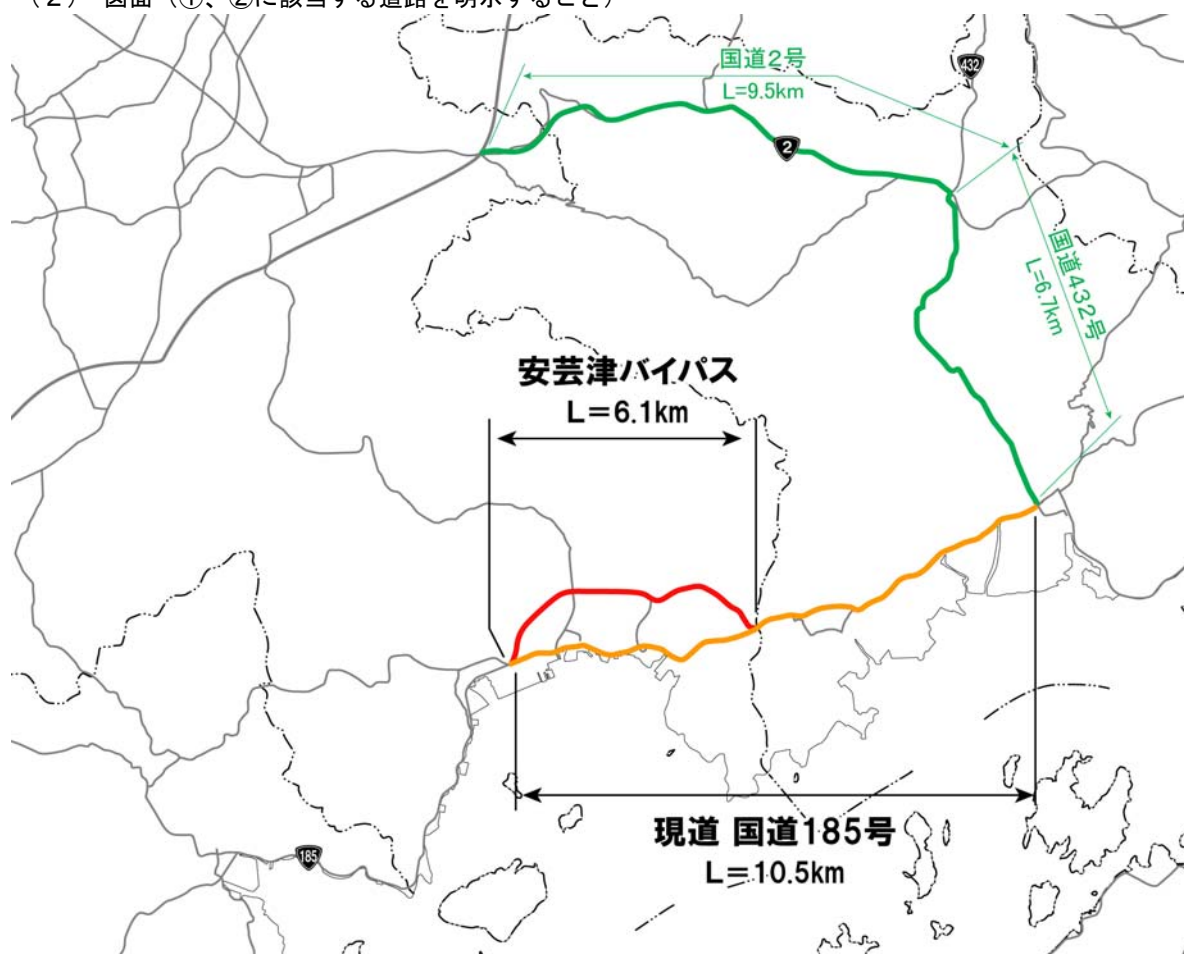
事業名：安芸津バイパス（事業全体）

（推計時点 H 4 2 年）

			整備なし (A)	整備あり (B)	
①新設・改築道路 ： 6.1km		交通量	[台/日]	—	8,800
		走行時間	[分]	—	7
		走行時間費用	[億円/年]	—	10.45
②主な周辺道路	国道185号 ： 10.5km	交通量	[台/日]	9,000	6,600
		走行時間	[分]	20	20
		走行時間費用	[億円/年]	31.32	21.85
	国道2号 ： 9.5km	交通量	[台/日]	37,600	36,000
		走行時間	[分]	16	16
		走行時間費用	[億円/年]	124.20	116.54
	国道432号 ： 6.7km	交通量	[台/日]	15,400	13,900
		走行時間	[分]	10	10
		走行時間費用	[億円/年]	29.66	26.63
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
③その他道路合計 ： 1020.6km		走行時間費用	[億円/年]	2,290.02	2,286.34

			走行時間費用 整備なし (A)	走行時間費用 整備あり (B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：1053.4km	走行時間短縮便益	[億円/年]	2,475.21	2,461.81	13.40

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること)



事業名：安芸津バイパス（残事業）

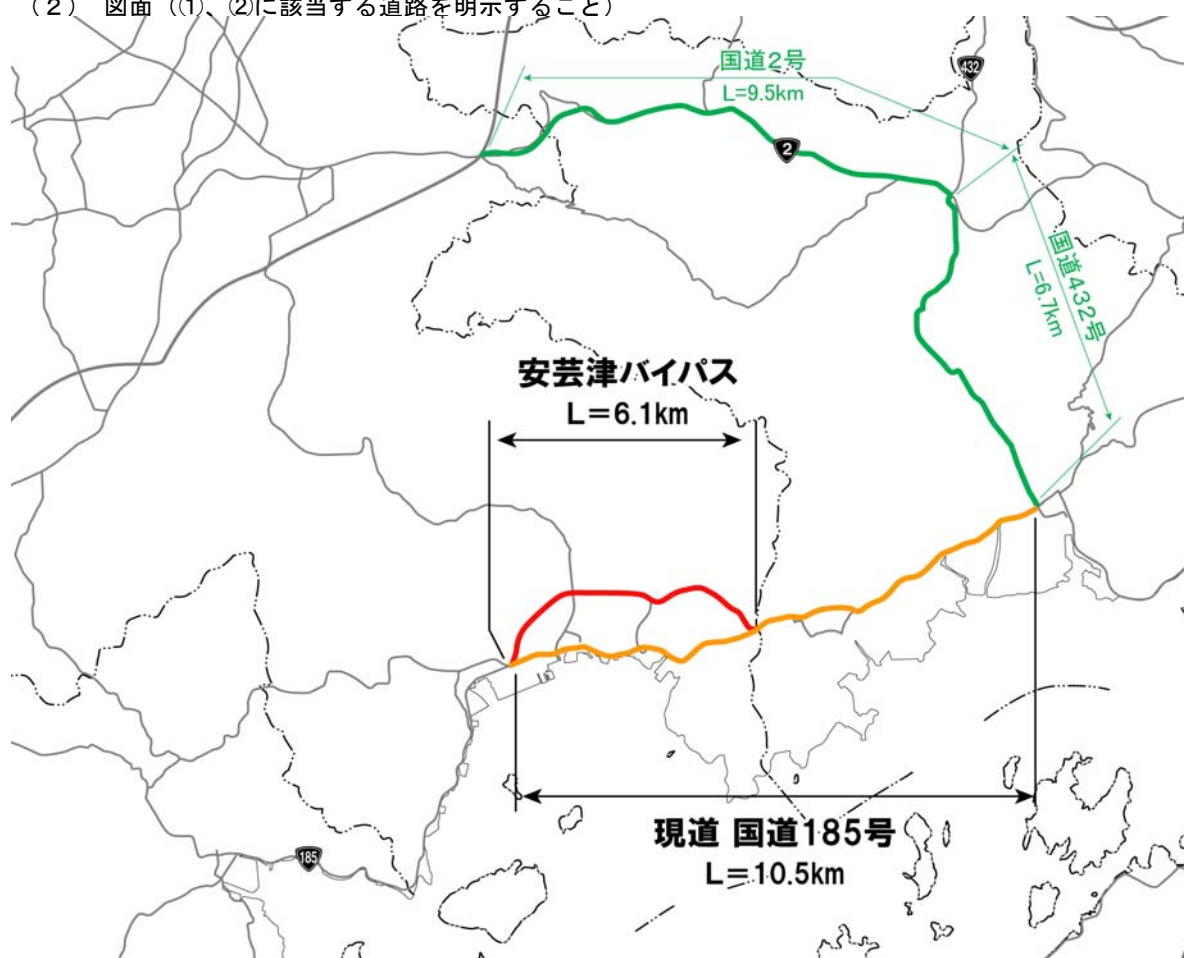
様式-3①

(推計時点 H42年)

			整備なし (A)	整備あり (B)	
①新設・改築道路 : 6.1km		交通量	[台/日]	5,800	8,800
		走行時間	[分]	2	7
		走行時間費用	[億円/年]	1.71	10.45
②主な周 辺道路	国道185 号 : 10.5km	交通量	[台/日]	9,300	6,600
		走行時間	[分]	20	20
		走行時間費用	[億円/年]	32.06	21.85
	国道2号 : 9.5km	交通量	[台/日]	36,300	36,000
		走行時間	[分]	16	16
		走行時間費用	[億円/年]	118.06	116.54
	国道432 号 : 6.7km	交通量	[台/日]	14,200	13,900
		走行時間	[分]	10	10
		走行時間費用	[億円/年]	27.15	26.63
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
	交通量	[台/日]			
	走行時間	[分]			
	走行時間費用	[億円/年]			
③その他道路合計 : 1020.6km		走行時間費用	[億円/年]	2,291.54	2,286.34

			走行時間費用 整備なし (A)	走行時間費用 整備あり (B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計 : 1053.4km	走行時間短縮便益	[億円/年]	2,470.52	2,461.81	8.72

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること)



費用便益分析の条件

事業名：安芸津バイパス

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)	☒	
	その他	☐	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	平成25年度	
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	☒ (H42年)
		複数時点での推計	☐
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	☒
		整備の有無のいずれかのみ推計	☐ 有 ☐ 無
		いずれかのみ推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	☒ (H17センサス)
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	☐
		その他 (	☐
			☐
	開発交通量の考慮	無	☒
		有	☐
		有の場合のみ	考慮した開発交通量 (トリップ数) () 台トリップ/日 考慮した理由を記載
	配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	☐
		転換率式を用いた配分	☐
		Q-V式と転換率式の併用による配分	☒
		均衡配分 (リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	☐
		簡易手法	☐
		簡易手法の採択理由	小規模事業である
山間部海岸部で併行道路が少ない			☐
その他 ()			
簡易手法の考え方 (将来交通量の設定方法等)			
速度設定の考え方	その他 (	☐	
	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定	☐	
	採用理由を記載		
	最終配分の速度	☐	
	採用理由を記載		
その他 (最終配分交通量とQV式との関係から平均速度を設定)		☒	

(3)

項目			チェック欄	
便益の算定	休日交通の影響	考慮しない	☒	
		考慮する	☐	
		考慮する場合のみ	面的に考慮	☐
			対象路線のみ考慮	☐
			採用した休日係数	() %
	休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載			
	災害等による通行止めの影響	考慮しない	☒	
		考慮する	☐	
		考慮する場合のみ	採用した通行止め日数	() 日
			採用した通行止め日数の考え方を記載	
	とり止め交通を考慮する	☐		
		とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載		
	冬期交通の影響	考慮しない	☒	
		考慮する	☐	
考慮する場合のみ		採用した冬期日数	() 日	
		採用した冬期日数の考え方を記載		
冬期の走行速度と交通容量の関係				
設定の考え方を記載				
交通流推計の時点以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	☒		
	その他 ()	☐		
車種別時間価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	☒		
	独自に設定した値を使用	☐		
車種別走行経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	☒		
	独自に設定した値を使用	☐		
交通事故減少便益算定	中央分離帯の有無を考慮	☐		
	中央分離帯の有無を考慮しない	☒		
走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少以外の便益	考慮しない	☒		
	考慮する	☐		
その他				

事業名：安芸津バイパス

(4)

項目		チェック欄	
費用の算定	事業費	詳細事業計画による値を採用	☐
		標準投資パターンを採用	☐
		その他（概略事業計画による値を採用）	☒
	維持管理費	維持管理費の設定根拠を記載	
		実績値に基づき維持管理費を算出	
雪寒費	積雪地域または寒冷地域である	☐	
その他			
4. その他			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名:安芸津バイパス(事業全体)

単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
0.17	6.1	1.04

年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-22年目	H 10	1.8009	109.9	0.19	0.29		
-21年目	H 11	1.7317	108.4	0.48	0.71		
-20年目	H 12	1.6651	107.2	0.19	0.27		
-19年目	H 13	1.6010	105.7	3.06	4.27		
-18年目	H 14	1.5395	103.8	7.12	9.73		
-17年目	H 15	1.4802	102.3	6.27	8.36		
-16年目	H 16	1.4233	101.0	0.65	0.84		
-15年目	H 17	1.3686	99.6	4.24	5.37		
-14年目	H 18	1.3159	98.7	10.63	13.05		
-13年目	H 19	1.2653	97.6	12.79	15.27		
-12年目	H 20	1.2167	96.8	8.70	10.07		
-11年目	H 21	1.1699	95.6	0.90	1.01		
-10年目	H 22	1.1249	93.7	0.19	0.21		
-9年目	H 23	1.0816	92.1	0.15	0.16		
-8年目	H 24	1.0400	92.1	0.48	0.50		
-7年目	H 25	1.0000	92.1	0.95	0.95		
-6年目	H 26	0.9615	92.1	8.36	8.04		
-5年目	H 27	0.9246	92.1	14.39	13.30		
-4年目	H 28	0.8890	92.1	21.06	18.72		
-3年目	H 29	0.8548	92.1	24.60	21.03		
-2年目	H 30	0.8219	92.1	29.37	24.14		
-1年目	H 31	0.7903	92.1	24.19	19.12		
供用開始年次	H 32	0.7599	92.1			0.99	0.75
1年目	H 33	0.7307	92.1			0.99	0.72
2年目	H 34	0.7026	92.1			0.99	0.70
3年目	H 35	0.6756	92.1			0.99	0.67
4年目	H 36	0.6496	92.1			0.99	0.64
5年目	H 37	0.6246	92.1			0.99	0.62
6年目	H 38	0.6006	92.1			0.99	0.59
7年目	H 39	0.5775	92.1			0.99	0.57
8年目	H 40	0.5553	92.1			0.99	0.55
9年目	H 41	0.5339	92.1			0.99	0.53
10年目	H 42	0.5134	92.1			0.99	0.51
11年目	H 43	0.4936	92.1			0.99	0.49
12年目	H 44	0.4746	92.1			0.99	0.47
13年目	H 45	0.4564	92.1			0.99	0.45
14年目	H 46	0.4388	92.1			0.99	0.43
15年目	H 47	0.4220	92.1			0.99	0.42
16年目	H 48	0.4057	92.1			0.99	0.40
17年目	H 49	0.3901	92.1			0.99	0.39
18年目	H 50	0.3751	92.1			0.99	0.37
19年目	H 51	0.3607	92.1			0.99	0.36
20年目	H 52	0.3468	92.1			0.99	0.34
21年目	H 53	0.3335	92.1			0.99	0.33
22年目	H 54	0.3207	92.1			0.99	0.32
23年目	H 55	0.3083	92.1			0.99	0.31
24年目	H 56	0.2965	92.1			0.99	0.29
25年目	H 57	0.2851	92.1			0.99	0.28
26年目	H 58	0.2741	92.1			0.99	0.27
27年目	H 59	0.2636	92.1			0.99	0.26
28年目	H 60	0.2534	92.1			0.99	0.25
29年目	H 61	0.2437	92.1			0.99	0.24
30年目	H 62	0.2343	92.1			0.99	0.23
31年目	H 63	0.2253	92.1			0.99	0.22
32年目	H 64	0.2166	92.1			0.99	0.21
33年目	H 65	0.2083	92.1			0.99	0.21
34年目	H 66	0.2003	92.1			0.99	0.20
35年目	H 67	0.1926	92.1			0.99	0.19
36年目	H 68	0.1852	92.1			0.99	0.18
37年目	H 69	0.1780	92.1			0.99	0.18
38年目	H 70	0.1712	92.1			0.99	0.17
39年目	H 71	0.1646	92.1			0.99	0.16
40年目	H 72	0.1583	92.1			0.99	0.16
41年目	H 73	0.1522	92.1			0.99	0.15
42年目	H 74	0.1463	92.1			0.99	0.14
43年目	H 75	0.1407	92.1			0.99	0.14
44年目	H 76	0.1353	92.1			0.99	0.13
45年目	H 77	0.1301	92.1			0.99	0.13
46年目	H 78	0.1251	92.1			0.99	0.12
47年目	H 79	0.1203	92.1			0.99	0.12
48年目	H 80	0.1157	92.1			0.99	0.11
49年目	H 81	0.1112	92.1	-25.97	-2.89	0.99	0.11
合 計				152.99	172.52	49.52	16.82

単純事業費計		178.96	49.52
--------	--	--------	-------

注1)事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

維持管理費の単価単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 安芸津バイパス(残事業)

					単価(億円)	延長(km)	単価(億円)
					0.16	4.6	0.74
年次	年度	割戻率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持修繕費(億円)	
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
-6年目	H 26	0.9615	92.1	8.36	8.04		
-5年目	H 27	0.9246	92.1	14.39	13.30		
-4年目	H 28	0.8890	92.1	21.06	18.72		
-3年目	H 29	0.8548	92.1	24.60	21.03		
-2年目	H 30	0.8219	92.1	29.37	24.14		
-1年目	H 31	0.7903	92.1	24.19	19.12		
供用開始年次	H 32	0.7599	92.1			0.70	0.54
1年目	H 33	0.7307	92.1			0.70	0.51
2年目	H 34	0.7026	92.1			0.70	0.50
3年目	H 35	0.6756	92.1			0.70	0.48
4年目	H 36	0.6496	92.1			0.70	0.46
5年目	H 37	0.6246	92.1			0.70	0.44
6年目	H 38	0.6006	92.1			0.70	0.42
7年目	H 39	0.5775	92.1			0.70	0.41
8年目	H 40	0.5553	92.1			0.70	0.39
9年目	H 41	0.5339	92.1			0.70	0.38
10年目	H 42	0.5134	92.1			0.70	0.36
11年目	H 43	0.4936	92.1			0.70	0.35
12年目	H 44	0.4746	92.1			0.70	0.33
13年目	H 45	0.4564	92.1			0.70	0.32
14年目	H 46	0.4388	92.1			0.70	0.31
15年目	H 47	0.4220	92.1			0.70	0.30
16年目	H 48	0.4057	92.1			0.70	0.29
17年目	H 49	0.3901	92.1			0.70	0.27
18年目	H 50	0.3751	92.1			0.70	0.26
19年目	H 51	0.3607	92.1			0.70	0.25
20年目	H 52	0.3468	92.1			0.70	0.24
21年目	H 53	0.3335	92.1			0.70	0.24
22年目	H 54	0.3207	92.1			0.70	0.23
23年目	H 55	0.3083	92.1			0.70	0.22
24年目	H 56	0.2965	92.1			0.70	0.21
25年目	H 57	0.2851	92.1			0.70	0.20
26年目	H 58	0.2741	92.1			0.70	0.19
27年目	H 59	0.2636	92.1			0.70	0.19
28年目	H 60	0.2534	92.1			0.70	0.18
29年目	H 61	0.2437	92.1			0.70	0.17
30年目	H 62	0.2343	92.1			0.70	0.17
31年目	H 63	0.2253	92.1			0.70	0.16
32年目	H 64	0.2166	92.1			0.70	0.15
33年目	H 65	0.2083	92.1			0.70	0.15
34年目	H 66	0.2003	92.1			0.70	0.14
35年目	H 67	0.1926	92.1			0.70	0.14
36年目	H 68	0.1852	92.1			0.70	0.13
37年目	H 69	0.1780	92.1			0.70	0.13
38年目	H 70	0.1712	92.1			0.70	0.12
39年目	H 71	0.1646	92.1			0.70	0.12
40年目	H 72	0.1583	92.1			0.70	0.11
41年目	H 73	0.1522	92.1			0.70	0.11
42年目	H 74	0.1463	92.1			0.70	0.10
43年目	H 75	0.1407	92.1			0.70	0.10
44年目	H 76	0.1353	92.1			0.70	0.10
45年目	H 77	0.1301	92.1			0.70	0.09
46年目	H 78	0.1251	92.1			0.70	0.09
47年目	H 79	0.1203	92.1			0.70	0.08
48年目	H 80	0.1157	92.1			0.70	0.08
49年目	H 81	0.1112	92.1	-15.76	-1.75	0.70	0.08
合 計				106.21	102.60	35.24	11.97

単純事業費計		121.97	35.24
--------	--	--------	-------

注1) 事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

便益の現在価値算定表

箇所名：安芸津バイパス（事業全体）

様式－5

年次	年度 (基準年) H25	総走行台+Rの年次別伸び率 (山陽7 Road)				GDP デフレーター	走行時間短縮便益(億円)				走行経費減少便益(億円)				事故減少便益(億円)				合 計 (億円)	
		乗用車	小型貨物	普通貨物	全 車		乗用車	小型貨物	普通貨物	① 計	現在価値 ①×(A)	乗用車	小型貨物	普通貨物	② 計	現在価値 (A)×②	③	現在価値 ③×(A)		
完成供用	H 32	0.99617	0.99466	1.01224	0.99867	0.7599	92.1	7.40	2.46	3.36	13.23	10.05	0.80	0.24	0.38	1.41	0.53	0.40	15.16	11.52
1年目	H 33	0.99714	0.99416	1.01580	0.99988	0.7307	92.1	7.38	2.44	3.24	13.24	9.68	0.82	0.24	0.38	1.41	0.53	0.38	15.18	11.09
2年目	H 34	0.99713	0.99413	1.01556	0.99988	0.7026	92.1	7.36	2.43	3.47	13.26	9.32	0.79	0.24	0.39	1.42	0.53	0.37	15.20	10.68
3年目	H 35	0.99713	0.99409	1.01532	0.99988	0.6756	92.1	7.34	2.41	3.52	13.28	8.97	0.79	0.23	0.39	1.42	0.53	0.36	15.22	10.28
4年目	H 36	0.99712	0.99406	1.01509	0.99988	0.6496	92.1	7.32	2.40	3.58	13.30	8.64	0.79	0.23	0.40	1.42	0.53	0.34	15.24	9.90
5年目	H 37	0.99711	0.99402	1.01486	0.99988	0.6246	92.1	7.30	2.39	3.63	13.31	8.32	0.79	0.23	0.41	1.42	0.53	0.33	15.26	9.53
6年目	H 38	0.99710	0.99398	1.01465	0.99988	0.6006	92.1	7.28	2.37	3.68	13.33	8.01	0.78	0.23	0.41	1.43	0.53	0.32	15.28	9.18
7年目	H 39	0.99709	0.99395	1.01444	0.99988	0.5775	92.1	7.26	2.36	3.74	13.35	7.71	0.78	0.23	0.42	1.43	0.53	0.30	15.30	8.84
8年目	H 40	0.99708	0.99391	1.01423	0.99988	0.5553	92.1	7.23	2.34	3.79	13.37	7.42	0.78	0.23	0.42	1.43	0.53	0.29	15.32	8.51
9年目	H 41	0.99708	0.99387	1.01403	0.99988	0.5339	92.1	7.21	2.33	3.84	13.38	7.15	0.78	0.23	0.43	1.43	0.53	0.28	15.34	8.19
10年目	H 42	0.99707	0.99384	1.01384	0.99988	0.5134	92.1	7.19	2.31	3.90	13.40	6.88	0.78	0.23	0.43	1.44	0.53	0.27	15.36	7.89
11年目	H 43	0.99232	0.99307	1.00117	0.99423	0.4936	92.1	7.14	2.30	3.90	13.34	6.58	0.77	0.22	0.44	1.43	0.52	0.26	15.29	7.55
12年目	H 44	0.99226	0.99302	1.00116	0.99419	0.4746	92.1	7.08	2.28	3.91	13.27	6.30	0.76	0.22	0.44	1.42	0.52	0.25	15.21	7.22
13年目	H 45	0.99220	0.99298	1.00116	0.99416	0.4564	92.1	7.03	2.27	3.91	13.20	6.03	0.76	0.22	0.44	1.41	0.52	0.24	15.13	6.91
14年目	H 46	0.99214	0.99293	1.00116	0.99413	0.4388	92.1	6.97	2.25	3.91	13.14	5.76	0.75	0.22	0.44	1.41	0.52	0.23	15.06	6.61
15年目	H 47	0.99207	0.99288	1.00116	0.99409	0.4220	92.1	6.92	2.23	3.92	13.07	5.51	0.75	0.22	0.44	1.40	0.52	0.22	14.98	6.32
16年目	H 48	0.99201	0.99282	1.00116	0.99406	0.4057	92.1	6.86	2.22	3.92	13.00	5.28	0.74	0.22	0.44	1.39	0.51	0.21	14.90	6.05
17年目	H 49	0.99195	0.99277	1.00116	0.99402	0.3901	92.1	6.81	2.20	3.93	12.93	5.05	0.73	0.21	0.44	1.39	0.50	0.20	14.83	5.78
18年目	H 50	0.99188	0.99272	1.00116	0.99398	0.3751	92.1	6.75	2.19	3.93	12.87	4.83	0.73	0.21	0.44	1.38	0.50	0.19	14.75	5.53
19年目	H 51	0.99181	0.99267	1.00115	0.99395	0.3607	92.1	6.70	2.17	3.94	12.80	4.62	0.72	0.21	0.44	1.37	0.49	0.50	14.67	5.29
20年目	H 52	0.99175	0.99261	1.00115	0.99391	0.3468	92.1	6.64	2.15	3.94	12.73	4.42	0.72	0.21	0.44	1.36	0.47	0.50	14.59	5.06
21年目	H 53	0.99168	0.99256	1.00115	0.99387	0.3335	92.1	6.58	2.14	3.95	12.67	4.22	0.71	0.21	0.44	1.36	0.45	0.49	14.52	4.84
22年目	H 54	0.99161	0.99250	1.00115	0.99384	0.3207	92.1	6.53	2.12	3.95	12.60	4.04	0.70	0.21	0.44	1.35	0.43	0.49	14.44	4.63
23年目	H 55	0.99154	0.99245	1.00115	0.99380	0.3083	92.1	6.47	2.11	3.95	12.53	3.86	0.70	0.20	0.44	1.34	0.41	0.49	14.36	4.43
24年目	H 56	0.99146	0.99239	1.00115	0.99376	0.2965	92.1	6.42	2.09	3.96	12.47	3.70	0.69	0.20	0.44	1.34	0.40	0.48	14.29	4.24
25年目	H 57	0.99139	0.99233	1.00115	0.99372	0.2851	92.1	6.36	2.07	3.96	12.40	3.53	0.69	0.20	0.44	1.33	0.38	0.48	14.21	4.05
26年目	H 58	0.99132	0.99227	1.00115	0.99368	0.2741	92.1	6.31	2.06	3.97	12.33	3.38	0.68	0.20	0.44	1.32	0.36	0.48	14.13	3.87
27年目	H 59	0.99124	0.99221	1.00114	0.99364	0.2636	92.1	6.25	2.04	3.97	12.27	3.23	0.67	0.20	0.44	1.32	0.35	0.47	14.06	3.70
28年目	H 60	0.99116	0.99214	1.00114	0.99360	0.2534	92.1	6.20	2.03	3.98	12.20	3.09	0.67	0.20	0.44	1.31	0.33	0.47	14.02	3.54
29年目	H 61	0.99108	0.99209	1.00114	0.99356	0.2437	92.1	6.14	2.01	3.98	12.13	2.96	0.66	0.20	0.44	1.30	0.32	0.47	13.90	3.39
30年目	H 62	0.99100	0.99202	1.00114	0.99352	0.2343	92.1	6.09	1.99	3.99	12.07	2.83	0.66	0.19	0.45	1.29	0.30	0.47	13.83	3.24
31年目	H 63	0.99092	0.99196	1.00114	0.99348	0.2253	92.1	6.03	1.98	3.99	12.00	2.70	0.65	0.19	0.45	1.29	0.29	0.46	13.75	3.10
32年目	H 64	0.99084	0.99190	1.00114	0.99343	0.2166	92.1	5.98	1.96	4.00	11.93	2.59	0.64	0.19	0.45	1.28	0.28	0.46	13.67	2.96
33年目	H 65	0.99075	0.99183	1.00114	0.99339	0.2083	92.1	5.92	1.95	4.00	11.87	2.47	0.64	0.19	0.45	1.27	0.27	0.46	13.60	2.83
34年目	H 66	0.99067	0.99176	1.00113	0.99334	0.2003	92.1	5.87	1.93	4.00	11.80	2.36	0.63	0.19	0.45	1.27	0.25	0.45	13.52	2.71
35年目	H 67	0.99058	0.99169	1.00113	0.99330	0.1926	92.1	5.81	1.91	4.01	11.73	2.26	0.63	0.19	0.45	1.26	0.24	0.45	13.44	2.59
36年目	H 68	0.99049	0.99162	1.00113	0.99325	0.1852	92.1	5.76	1.90	4.01	11.67	2.16	0.62	0.18	0.45	1.25	0.23	0.45	13.37	2.48
37年目	H 69	0.99040	0.99155	1.00113	0.99321	0.1780	92.1	5.70	1.88	4.02	11.60	2.07	0.61	0.18	0.45	1.25	0.22	0.44	13.29	2.37
38年目	H 70	0.99031	0.99148	1.00113	0.99316	0.1712	92.1	5.65	1.86	4.02	11.53	1.97	0.61	0.18	0.45	1.24	0.21	0.44	13.21	2.26
39年目	H 71	0.99021	0.99141	1.00113	0.99312	0.1646	92.1	5.59	1.85	4.03	11.47	1.89	0.60	0.18	0.45	1.23	0.20	0.44	13.14	2.16
40年目	H 72	0.99011	0.99133	1.00113	0.99307	0.1583	92.1	5.53	1.83	4.03	11.40	1.80	0.60	0.18	0.45	1.22	0.19	0.43	13.06	2.07
41年目	H 73	0.99002	0.99126	1.00113	0.99302	0.1522	92.1	5.48	1.82	4.04	11.33	1.72	0.59	0.18	0.45	1.22	0.19	0.43	12.98	1.98
42年目	H 74	0.98991	0.99118	1.00112	0.99297	0.1463	92.1	5.42	1.80	4.04	11.27	1.65	0.58	0.18	0.45	1.21	0.18	0.43	12.91	1.89
43年目	H 75	0.98981	0.99110	1.00112	0.99292	0.1407	92.1	5.37	1.78	4.05	11.20	1.58	0.58	0.17	0.45	1.20	0.17	0.43	12.83	1.81
44年目	H 76	0.98971	0.99102	1.00112	0.99287	0.1353	92.1	5.31	1.77	4.05	11.13	1.51	0.57	0.17	0.45	1.20	0.16	0.42	12.75	1.73
45年目	H 77	0.98960	0.99094	1.00112	0.99282	0.1301	92.1	5.26	1.75	4.05	11.07	1.44	0.57	0.17	0.45	1.19	0.15	0.42	12.68	1.65
46年目	H 78	0.98949	0.99086	1.00112	0.99277	0.1251	92.1	5.20	1.74	4.06	11.00	1.38	0.56	0.17	0.45	1.18	0.15	0.42	12.60	1.58
47年目	H 79	0.98938	0.99077	1.00112	0.99271	0.1203	92.1	5.15	1.72	4.06	10.93	1.31	0.55	0.17	0.45	1.18	0.14	0.41	12.52	1.51
48年目	H 80	0.98926	0.99069	1.00112	0.99266	0.1157	92.1	5.09	1.70	4.07	10.87	1.26	0.55	0.17	0.45	1.17	0.14	0.41	12.44	1.44
49年目	H 81	0.98915	0.99060	1.00112	0.99261	0.1112	92.1	5.04	1.69	4.07	10.80	1.20	0.54	0.16	0.45	1.16	0.13	0.41	12.37	1.38
合 計								317.68	103.97	195.42	617.07	216.67	34.24	10.11	21.81	66.16	23.92	8.46	707.15	248.34

便益の現在価値算定表

箇所名：安芸津バイパス(残事業)

様式-5

年度 (基準年) H25	総走行台キロの年次別伸び率 (山陽2ロータ)				GDP デフレーター	走行時間短縮便益(億円)				走行経費減少便益(億円)				事故減少便益(億円)				合 計 (億円)		
	乗用車	小型貨物	普通貨物	全 車		乗用車	小型貨物	普通貨物	① 計	現在価値 (1)×(A)	乗用車	小型貨物	普通貨物	② 計	現在価値 (A)×②	③	現在価値 (3)×(A)			
完成供用	H 32	0.99617	0.99466	1.01224	0.99867	92.1	5.22	1.75	1.73	8.69	6.61	0.65	0.19	0.23	1.07	0.82	0.33	0.25	10.10	7.68
1年目	H 33	0.99714	0.99416	1.01580	0.99988	92.1	5.20	1.74	1.76	8.70	6.35	0.65	0.19	0.23	1.08	0.79	0.33	0.24	10.11	7.38
2年目	H 34	0.99713	0.99413	1.01556	0.99988	92.1	5.19	1.73	1.79	8.70	6.11	0.65	0.19	0.24	1.08	0.76	0.33	0.23	10.11	7.10
3年目	H 35	0.99713	0.99409	1.01532	0.99988	92.1	5.17	1.72	1.81	8.70	5.88	0.64	0.19	0.24	1.08	0.73	0.33	0.23	10.11	6.83
4年目	H 36	0.99712	0.99406	1.01509	0.99988	92.1	5.16	1.71	1.84	8.70	5.65	0.64	0.19	0.25	1.08	0.70	0.33	0.22	10.12	6.57
5年目	H 37	0.99711	0.99402	1.01486	0.99988	92.1	5.14	1.70	1.87	8.71	5.44	0.64	0.19	0.25	1.08	0.67	0.33	0.21	10.12	6.32
6年目	H 38	0.99710	0.99398	1.01465	0.99988	92.1	5.13	1.69	1.90	8.71	5.23	0.64	0.19	0.25	1.08	0.65	0.33	0.20	10.12	6.08
7年目	H 39	0.99709	0.99395	1.01444	0.99988	92.1	5.11	1.68	1.92	8.71	5.03	0.64	0.19	0.26	1.08	0.62	0.33	0.19	10.12	5.85
8年目	H 40	0.99708	0.99391	1.01423	0.99988	92.1	5.10	1.67	1.95	8.71	4.84	0.63	0.19	0.26	1.08	0.60	0.33	0.19	10.13	5.62
9年目	H 41	0.99708	0.99387	1.01403	0.99988	92.1	5.08	1.66	1.98	8.72	4.65	0.63	0.18	0.26	1.08	0.58	0.33	0.18	10.13	5.41
10年目	H 42	0.99707	0.99384	1.01384	0.99988	92.1	5.07	1.65	2.01	8.72	4.48	0.63	0.18	0.27	1.08	0.56	0.33	0.17	10.13	5.20
11年目	H 43	0.99232	0.99307	1.01117	0.99423	92.1	5.03	1.63	2.01	8.67	4.28	0.63	0.18	0.27	1.08	0.53	0.33	0.16	10.08	4.97
12年目	H 44	0.99226	0.99302	1.01116	0.99419	92.1	4.99	1.62	2.01	8.62	4.09	0.62	0.18	0.27	1.07	0.51	0.33	0.16	10.02	4.76
13年目	H 45	0.99220	0.99298	1.01116	0.99416	92.1	4.95	1.61	2.01	8.57	3.91	0.62	0.18	0.27	1.06	0.49	0.33	0.15	9.97	4.55
14年目	H 46	0.99214	0.99293	1.01116	0.99413	92.1	4.91	1.60	2.01	8.53	3.74	0.61	0.18	0.27	1.06	0.46	0.33	0.14	9.91	4.35
15年目	H 47	0.99207	0.99288	1.01116	0.99409	92.1	4.87	1.59	2.02	8.48	3.58	0.61	0.18	0.27	1.05	0.44	0.32	0.14	9.85	4.16
16年目	H 48	0.99201	0.99282	1.01116	0.99406	92.1	4.83	1.58	2.02	8.43	3.42	0.60	0.18	0.27	1.05	0.42	0.32	0.13	9.80	3.98
17年目	H 49	0.99195	0.99277	1.01116	0.99402	92.1	4.79	1.57	2.02	8.38	3.27	0.60	0.17	0.27	1.04	0.41	0.32	0.13	9.74	3.80
18年目	H 50	0.99188	0.99272	1.01116	0.99398	92.1	4.76	1.55	2.02	8.33	3.13	0.59	0.17	0.27	1.03	0.39	0.32	0.12	9.69	3.63
19年目	H 51	0.99181	0.99267	1.01115	0.99395	92.1	4.72	1.54	2.03	8.29	2.99	0.59	0.17	0.27	1.03	0.37	0.32	0.11	9.63	3.47
20年目	H 52	0.99175	0.99261	1.01115	0.99391	92.1	4.68	1.53	2.03	8.24	2.86	0.58	0.17	0.27	1.02	0.35	0.31	0.11	9.58	3.32
21年目	H 53	0.99168	0.99256	1.01115	0.99387	92.1	4.64	1.52	2.03	8.19	2.73	0.58	0.17	0.27	1.02	0.34	0.31	0.10	9.52	3.17
22年目	H 54	0.99161	0.99250	1.01115	0.99384	92.1	4.60	1.51	2.03	8.14	2.61	0.57	0.17	0.27	1.01	0.32	0.31	0.10	9.46	3.03
23年目	H 55	0.99154	0.99245	1.01115	0.99380	92.1	4.56	1.50	2.04	8.09	2.50	0.57	0.17	0.27	1.01	0.31	0.31	0.10	9.41	2.90
24年目	H 56	0.99146	0.99239	1.01115	0.99376	92.1	4.52	1.49	2.04	8.05	2.39	0.56	0.17	0.27	1.00	0.30	0.31	0.09	9.35	2.77
25年目	H 57	0.99139	0.99233	1.01115	0.99372	92.1	4.48	1.47	2.04	8.00	2.28	0.56	0.16	0.27	0.99	0.28	0.31	0.09	9.30	2.65
26年目	H 58	0.99132	0.99227	1.01115	0.99368	92.1	4.44	1.46	2.04	7.95	2.18	0.55	0.16	0.27	0.99	0.27	0.30	0.08	9.24	2.53
27年目	H 59	0.99124	0.99221	1.01114	0.99364	92.1	4.41	1.45	2.05	7.90	2.08	0.55	0.16	0.27	0.98	0.26	0.30	0.08	9.19	2.42
28年目	H 60	0.99116	0.99215	1.01114	0.99360	92.1	4.37	1.44	2.05	7.85	1.99	0.54	0.16	0.27	0.98	0.25	0.30	0.08	9.13	2.31
29年目	H 61	0.99108	0.99209	1.01114	0.99356	92.1	4.33	1.43	2.05	7.81	1.90	0.54	0.16	0.27	0.97	0.24	0.30	0.07	9.07	2.21
30年目	H 62	0.99100	0.99202	1.01114	0.99352	92.1	4.29	1.42	2.05	7.76	1.82	0.53	0.16	0.27	0.97	0.23	0.30	0.07	9.02	2.11
31年目	H 63	0.99092	0.99196	1.01114	0.99348	92.1	4.25	1.41	2.05	7.71	1.74	0.53	0.16	0.27	0.96	0.22	0.29	0.07	8.96	2.02
32年目	H 64	0.99084	0.99190	1.01114	0.99343	92.1	4.21	1.39	2.06	7.66	1.66	0.52	0.15	0.27	0.95	0.21	0.29	0.06	8.91	1.93
33年目	H 65	0.99075	0.99183	1.01114	0.99339	92.1	4.17	1.38	2.06	7.61	1.59	0.52	0.15	0.27	0.95	0.20	0.29	0.06	8.85	1.84
34年目	H 66	0.99067	0.99176	1.01113	0.99334	92.1	4.13	1.37	2.06	7.57	1.52	0.51	0.15	0.28	0.94	0.19	0.29	0.06	8.80	1.76
35年目	H 67	0.99058	0.99169	1.01113	0.99330	92.1	4.09	1.36	2.06	7.52	1.45	0.51	0.15	0.28	0.94	0.18	0.29	0.06	8.74	1.68
36年目	H 68	0.99049	0.99162	1.01113	0.99325	92.1	4.05	1.35	2.07	7.47	1.38	0.50	0.15	0.28	0.93	0.17	0.28	0.05	8.68	1.61
37年目	H 69	0.99040	0.99155	1.01113	0.99321	92.1	4.02	1.34	2.07	7.42	1.32	0.50	0.15	0.28	0.92	0.16	0.28	0.05	8.63	1.54
38年目	H 70	0.99031	0.99148	1.01113	0.99316	92.1	3.98	1.33	2.07	7.37	1.26	0.49	0.15	0.28	0.92	0.16	0.28	0.05	8.57	1.47
39年目	H 71	0.99021	0.99141	1.01113	0.99312	92.1	3.94	1.31	2.07	7.33	1.21	0.49	0.15	0.28	0.91	0.15	0.28	0.05	8.52	1.40
40年目	H 72	0.99011	0.99133	1.01113	0.99307	92.1	3.90	1.30	2.08	7.28	1.15	0.49	0.14	0.28	0.91	0.14	0.28	0.04	8.46	1.34
41年目	H 73	0.99002	0.99126	1.01113	0.99302	92.1	3.86	1.29	2.08	7.23	1.10	0.48	0.14	0.28	0.90	0.14	0.27	0.04	8.41	1.28
42年目	H 74	0.98991	0.99118	1.01112	0.99297	92.1	3.82	1.28	2.08	7.18	1.05	0.48	0.14	0.28	0.90	0.13	0.27	0.04	8.35	1.22
43年目	H 75	0.98981	0.99110	1.01112	0.99292	92.1	3.78	1.27	2.08	7.13	1.00	0.47	0.14	0.28	0.89	0.13	0.27	0.04	8.29	1.17
44年目	H 76	0.98971	0.99102	1.01112	0.99287	92.1	3.74	1.26	2.08	7.09	0.96	0.47	0.14	0.28	0.88	0.12	0.27	0.04	8.24	1.11
45年目	H 77	0.98960	0.99094	1.01112	0.99282	92.1	3.70	1.25	2.09	7.04	0.92	0.46	0.14	0.28	0.88	0.11	0.27	0.03	8.18	1.06
46年目	H 78	0.98949	0.99086	1.01112	0.99277	92.1	3.67	1.24	2.09	6.99	0.87	0.46	0.14	0.28	0.87	0.11	0.26	0.03	8.13	1.02
47年目	H 79	0.98938	0.99077	1.01112	0.99271	92.1	3.63	1.22	2.09	6.94	0.83	0.45	0.14	0.28	0.87	0.10	0.26	0.03	8.07	0.97
48年目	H 80	0.98926	0.99069	1.01112	0.99266	92.1	3.59	1.21	2.09	6.89	0.80	0.45	0.13	0.28	0.86	0.10	0.26	0.03	8.02	0.93
49年目	H 81	0.98915	0.99060	1.01112	0.99261	92.1	3.55	1.20	2.10	6.85	0.76	0.44	0.13	0.28	0.85	0.10	0.26	0.03	7.96	0.89
合 計							223.80	73.94	100.58	398.31	140.58	27.85	8.22	13.43	49.50	17.44	15.20	5.38	463.01	163.40

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道185号	安芸津バイパス	2/2	6.1km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費			式	1	10,064	
	改良費		式	1	3,018	
		土工	m3	817,200	2,020	切土、盛土、捨土
		軟弱地盤改良工	m3	0	0	
		法面工	m²	97,700	141	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	240	補強土壁、重力式擁壁、ブロック積擁壁、扶壁式擁壁
		管渠工	m	1,419	40	
		函渠工	m	579	207	
		排水工	m	15,688	169	
		中央分離帯工	m	0	0	
		雑工	式	1	201	
	橋梁費		式	1	1,292	
		100m以上	m	118	563	ME橋(1橋)
		100m未満	m	88	729	PC橋(4橋)
	トンネル費		式	1	4,989	
		NATM	m	1,564	4,989	4本
		シールド	m	0	0	
	IC・JCT費		式	1	0	
		IC	箇所	0	0	
		JCT	箇所	0	0	
	舗装費		式	1	449	
		車道舗装	m²	53,960	389	
		歩道舗装	m²	16,455	60	
	附帯施設費		式	1	316	
		交通管理施設工	式	1	316	標識工、防護柵工、道路照明工、中央分離帯工、等
		遮音壁	m	0	0	
②用地及び補償費			式	1	4,642	
	用地費		式	1	2,253	
		宅地	m²	29,244	1,215	
		田畑	m²	109,955	968	
		山林・原野	m²	53,636	70	
	補償費		式	1	2,389	
③間接経費		式	1	3,794	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費	
全体事業費				18,500		

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道185号	安芸津バイパス	2/2	6.1km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費			式	1	7,349	
	改良費		式	1	2,616	
		土工	m3	652,200	1,755	切土、盛土、捨土
		軟弱地盤改良工	m3	0	0	
		法面工	m²	71,700	122	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	199	補強土壁、重力式擁壁、ブロック積擁壁、扶壁式擁壁
		管渠工	m	1,064	32	
		函渠工	m	480	165	
		排水工	m	11,766	150	
		中央分離帯工	m	0	0	
		雑工	式	1	193	
	橋梁費		式	1	788	
		100m以上	m	118	563	ME橋(1橋)
		100m未満	m	33	226	PC橋(2橋)
	トンネル費		式	1	3,372	
		NATM	m	265	3,372	3本
		シールド	m	0	0	
	IC・JCT費		式	1	0	
		IC	箇所	0	0	
		JCT	箇所	0	0	
	舗装費		式	1	316	
		車道舗装	m²	37,099	274	
		歩道舗装	m²	11,548	42	
	附帯施設費		式	1	256	
		交通管理施設工	式	1	256	標識工、防護柵工、道路照明工、中央分離帯工、等
		遮音壁	m	0	0	
②用地及び補償費			式	1	2,802	
	用地費		式	1	1,232	
		宅地	m²	14,751	559	
		田畑	m²	69,707	618	
		山林・原野	m²	43,807	55	
	補償費		式	1	1,570	
③間接経費		式	1	2,459	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費	
全体事業費				12,610		

(事業全体)

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道185号	安芸津バイパス	2	6.1km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	6.1	1,525	巡回、清掃、除草等
修繕費	式	1	3,965	路面補修、構造物の点検・補修等
その他	式			
維持管理費合計			5,490	

(残事業)

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道185号	安芸津バイパス	2	4.6km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	4.6	920	巡回、清掃、除草等
修繕費	式	1	2,760	路面補修、構造物の点検・補修等
その他	式			
維持管理費合計			3,680	

一般国道１８５号安芸津バイパス
〔広島県への意見照会と回答〕

国中整企画第40号
国中整港計第21号
平成25年10月4日

広島県知事 殿

中国地方整備局長



中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る
対応方針(原案)の作成に係る意見照会について(ご依頼)

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対するご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領(以下「実施要領」という。)に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を図るべく、中国地方整備局事業監視委員会(以下「委員会」という。)において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、平成25年10月28日(月)に委員会を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、委員会に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、別紙について貴職のご意見を承りたく依頼いたします。

(別紙)

【砂防事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
広島西部山系直轄砂防事業	継続	

【道路事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
一般国道2号福山道路	継続	
一般国道183号鍵掛峠道路	継続	
一般国道185号安芸津バイパス	継続	

※貴県の意見を踏まえ、「中国地方整備局事業監視委員会」へ諮る
対応方針(原案)を作成するためのものです。

■ご意見の送付期限：平成25年10月17日(木)までをお願いします。

※様式自由

■送付先

〒730-8530

広島市中区上八丁堀6-30

中国地方整備局 企画部 企画課長 宛

■お問い合わせ先

中国地方整備局 企画部企画課

課長補佐 加田

教習係長 松田

TEL:082-221-9231(代表)

FAX:082-227-2651

土 総 第 1 4 号

平成25年10月17日

中国地方整備局長 様

広島県知事

(土木総務課)



中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成に係る意見照会について（回答）

平成25年10月4日付け国中整企画第40号及び国中整港計第21号で依頼のこのことについて、対応方針（原案）案については、異存ありません。

なお、個別の事業についての意見については、別紙のとおりです。

- 道路事業 一般国道2号 福山道路
一般国道183号 鍵掛峠道路
一般国道185号 安芸津バイパス
- 砂防事業 広島西部山系直轄砂防事業

担当 経営戦略グループ

電話 082-513-3816

(担当者 森山)



中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）に対する意見

【道路事業】

事業名	一般国道2号 福山道路
対応方針に対する意見 (対応方針：継続)	妥当である。
(具体的意見) 福山道路は、地域高規格道路「倉敷福山道路」の一部を構成し、一般国道2号の著しい交通混雑の緩和を図るとともに、広域連携の強化や物流の効率化を高めるため、整備を着実に進める必要があると考えます。 今後も引き続きコストの縮減に努めながら、早期の供用開始に向け、計画的に整備を進めていきたい。	
事業名	一般国道183号 鍵掛峠道路
対応方針に対する意見 (対応方針：継続)	妥当である。
(具体的意見) 鍵掛峠道路は、広島県備北地域と鳥取県西部地域の連携や地域間交流の活性化機能の向上が図られるとともに、現道の線形不良区間・異常気象時通行規制区間を解消できるなど、防災上の観点から重要な道路であると考えます。 今後も引き続きコストの縮減に努めながら、早期の供用開始に向け、計画的に整備を進めていきたい。	
事業名	一般国道185号 安芸津バイパス
対応方針に対する意見 (対応方針：継続)	妥当である。
(具体的意見) 安芸津バイパスは、現道において、異常気象時に越波や路面冠水による通行止めが発生している区間があり、防災上の観点から重要な道路であると考えております。 現在、一部区間が供用されているものの交通転換が進まず、バイパスとしての機能が十分に発揮されていない状況となっております。 今後も引き続きコストの縮減に努めながら、早期の供用開始に向け、計画的に整備を進めていきたい。	

【砂防事業】

事業名	広島西部山系直轄砂防事業
対応方針に対する意見 (対応方針：継続)	妥当である。
(具体的意見) 広島西部山系においては、土石流による人的被害、家屋被害、重要交通網の交通途絶等の被害を軽減するため、当該事業の実施の必要があると考えます。 今後も引き続き、維持管理も含めたコストの縮減に努めながら、計画的に整備を進めていただきたい。	